

# 筒木坂屏風山遺跡

Dogizakabyobuzan-site

*March, 2008*

青森県つがる市教育委員会

卷頭写真2 縄文時代の遺構2



100号 完掘状況（北から）



100号 土器出土状況（西から）



100号 遺構底面土器出土状況（南西から）



106号 出出土器

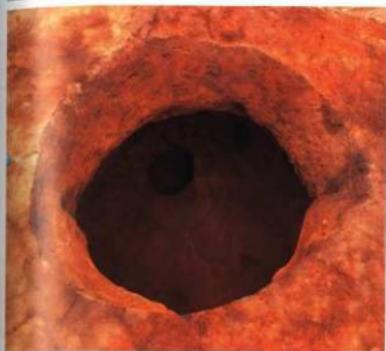


56号 遺物出土状況（北から）



106号 遺物出土状況（南から）

巻頭写真3 繩文時代の遺構3



166号 完掘状況（西から）



166号 底面ピット<191号>  
土器出土状況（西から）



166号 出土土器



130号 土器出土状況（東から）



103号 埋設土器検出状況（東から）



103号 埋設土器

卷頭写真4 平安時代の遺構



上部を削平された住居跡<374号ほか>（南西から）



374号 焼土検出状況（南から）



27号 土層断面<白色部分は白頭山-苦小牧火山灰>（東から）



30号 焼土・炭化物検出状況（南から）



310・311号 土層断面（東から）

## 例 言

1. 本書は、青森県つがる市木造筒木坂屏風山246・247・251番地における、筒木坂屏風山遺跡（青森県遺跡番号16040）の緊急発掘調査報告書である。
2. 今回の調査は、容細企業が実施する土砂（砂利）採取事業に伴い実施した事前調査で、調査から本報告書の刊行までの費用に対し、国庫補助金・県費補助金（補助事業者：つがる市）を受け、残りをつがる市が負担している。
3. 調査は、つがる市教育委員会文化課（調査主任：佐野忠史、調査員：菅野紀子・羽石智治）が実施している。発掘調査期間は、以下の通りである。  
　＜平成17年度＞ 平成17（2005）年6月8日～9月30日  
　＜平成18年度＞ 平成18（2006）年9月6日～11月30日
4. なお、詳細は「1-3 調査要項」に記す。
5. 本書は、佐野忠史（つがる市教育委員会文化課学芸員）が編集にあたり、主に佐野が執筆した。なお、各原稿の文責を明記している。
6. 調査から本書の作成に至るまで、文化庁・青森県教育庁文化財保護課の指導を受けている。また必要に応じて「つがる市遺跡保存検討会」（委員長：村越 潔弘前大学名誉教授）の指導を受けた。
7. 出土石器の石材に関しては、川村真一氏（日本地学教育学会会員）に御教示いただいた。ただし記載の誤り等があれば編著者の責任である。
8. 図中の水準高（標高）は、東京湾中等潮位（T.P.）を基準とする値を示している。
9. 遷構のうち上坑・ピットについては、基本的に確認された径が40cm未満のものをピット、それ以上のものを上坑として扱った。
10. 遷構等の上層の色調は、「新版 標準土色帖」15版（小山ほか1995）を基準とした。また図中の層序については、基本層序はローマ数字（I、II）、遷構種類は算用数字（1、2）で表記した。
11. 図中の土層注記にある混入・多量・中量・少量・微量で表記する内容物・混入物の上層中の割合は、混入=40～50%、多量=25～30%、中量=15～20%、少量=5～10%、微量=5%未満である。
12. 調査によって得られた遺物や、写真・図面等の諸資料はすべて、つがる市教育委員会の責任の下、所管の施設に保管・収蔵し、活用を図るものとする。
13. 調査から本報告書の刊行に至るまで、特に以下の諸機関・個人の御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・順不同）。

文化庁 青森県教育庁文化財保護課 つがる市役所建設部土木課 つがる市遺跡保存検討会

東信技術測量株式会社 (有)一心工業 (有)葛西商事 亀ヶ岡・田小屋野地区のみなさん

村越 潔 岡田康博 川村真一 小山内壽一 石田榮市 瓜田又一 山谷晴三 山谷敬二

工藤 忍 鈴木和子 柏馬信吉 中野聖子 川口 潤 戸広臣 雪田知宏 柳原滋高 斎藤 淳

藤原弘明 中田書矢 伊東 信 工藤清泰 山田 勅 武田嘉彦 清本 学 鈴木 徹 毛内裕之

成田幸治 平山栄治 渡辺一晋 外崎 学 三宅徹也 三浦圭介 池内 覚 加藤宣春 柴 正敏

# 目 次

巻頭写真1~4

ごあいさつ

例 言

目 次

	ページ
第1章 遺跡と調査の概要.....	1
1-1 調査に至る経緯 .....	1
1-2 遺跡の位置と概要 .....	2
1-3 調査要項 .....	4
1-4 調査の方法と経過 .....	5
第2章 基本層序 .....	12
第3章 遺構出土遺物 .....	15
第4章 繩文時代の遺構 .....	32
4-1 概 要 .....	32
4-2 住 居 跡 .....	32
4-2-1 245号 .....	32
4-2-2 336号 .....	36
4-2-3 301号 .....	40
4-3 掘立柱建物跡 .....	42
4-3-1 111~243号 .....	42
4-3-2 89~146号 .....	45
4-4 土坑・ピット .....	48
4-4-1 1~8・10・47・71・82・84・223号 .....	48
4-4-2 9・37・42~46・72~76・80・81・83・85・87・178・181号 .....	50
4-4-3 11~15・17・86・177・179・180号 .....	54
4-4-4 18・19・25・26・36・38・41・48・49・52・53・55・77・79・186・213・214号 .....	56
4-4-5 21・24・33・51・56・58~61・185号 .....	59
4-4-6 22・28・69・115・136・203号 .....	65
4-4-7 29号 .....	67
4-4-8 34・118・129・133・139・154・161~163・224号 .....	68
4-4-9 35号 .....	71
4-4-10 39・40・54・57・62・63・65・68・70・113・169~171・197・ 200~202・204・205・207号 .....	72
4-4-11 64・66・67・114・198号 .....	79
4-4-12 94・189・199・222号 .....	80

4-4-13	98号	81
4-4-14	100号	82
4-4-15	101・102号	87
4-4-16	106号	90
4-4-17	116・119・120・122・123・125号	93
4-4-18	142・143・174・182・194号	95
4-4-19	158～160・208号	99
4-4-20	166号	100
4-4-21	188・190号	105
4-4-22	249・250・262～264・266・268号	105
4-4-23	254・255号	107
4-4-24	269・334・381～384号	107
4-4-25	270～272・274・287～289・292～294・299号	108
4-4-26	275・279～282・285・290・291・297・298号	110
4-4-27	306～309・335・373・386号	111
4-4-28	314～316・394号	112
4-4-29	319・461号	113
4-4-30	322・323・327・328・330・332・388・390・392・395～398・ 400～404・446・447・455・457号	114
4-4-31	331・389・456・458・463～466号	117
4-4-32	405・407・408・410・414・418・420・422・425～429・432～441号	118
4-4-33	413・421・430・431・444号	120
4-4-34	448～452・454・470・492号	122
4-4-35	467～469・474・490・491号	123
4-4-36	472・473・493～497号	125
4-4-37	475・498～501・533・535～543・561・562・566・574・578号	126
4-4-38	478・483・485号	129
4-4-39	479・481・482・484号	130
4-4-40	480・486・487・527号	131
4-4-41	488・489・519・524・530・531・534号	132
4-4-42	504・505・507～510・512・513・515・516・518・520・521・523・ 525・526・532・559・560号	133
4-4-43	563～565・570～572号	135
4-4-44	567・569号	136
4-4-45	568号	136
4-4-46	575・579号	137
4-5	その他の遺構	137
4-5-1	103号	138
4-5-2	576号	140
4-5-3	577号	144

<b>第5章 平安時代の遺構</b>	146
5-1 概 要	146
5-2 住居跡	146
5-2-1 156・164・165・209～212・247・248・251～253・257～261・370・374～378・380号	146
5-3 土坑・ピット	149
5-3-1 372・391・399・471号	149
5-4 炭 置	151
5-4-1 23号	151
5-4-2 27号	152
5-4-3 30号	153
5-5 その他の遺構	153
5-5-1 230号	153
5-5-2 310・311・573号	154
<b>第6章 年代不明の遺構</b>	155
6-1 概 要	155
<b>第7章 ま と め</b>	155
<b>引用参考文献</b>	
<b>報告書抄録</b>	
<b>奥 付</b>	

## 第1章 遺跡と調査の概要

### 1-1 調査に至る経緯

土砂採取がなければ、この遺跡はわれわれの前に姿を現すことはなかったのかもしれない。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったのだが、平成15（2003）年に、当地でおこなわれた土砂採取の際に土器が出土したという通報が木造町教育委員会に寄せられた。木造町教育委員会と青森県教育委員会で現地を確認したところ、土器等の散布が確認された。その後、両者が協議し土砂採取前に当地が遺跡であるかどうか確認する必要があるという結論に至り、その旨を事業者に連絡した。事業者はこのことを理解され、土砂採取を中断。平成15年11月に、県教育庁文化財保護課によって試掘調査が実施された。その結果、縄文中期～後期の遺物包含層と遺構の分布も確認されたため、当該地周辺は、筒木坂屏風山遺跡（青森県遺跡番号16040）として新規登録された（工藤2004）。この結果を受け、当該地での土砂採取は発掘調査終了後ということになり、その旨、木造町教育委員会より事業者に通知され、事業者の了解が得られた。

しかし調査については、翌平成16（2004）年度には年度途中で市町村合併が実行されることもあり、木造町教育委員会としては新たに調査体制を組めない。そのため平成16（2004）年10月13日に旧木造町役場にて県教育庁文化財保護課、木造町教育委員会、木造町との合併が決まっており発掘調査体制を持つ森田村教育委員会担当職員等が話し合いを持った結果、合併後のつがる市教育委員会で、平成17～18（2005～06）年度に調査を実施することとなった。その後平成17（2005）年5月に、事業者（有）一心工業より文化財保護法上の書類が提出され、つがる市教育委員会文化課が6月8日より調査を開始。調査は2ヶ年度に及び、最終的には平成18（2006）年11月30日にすべての発掘調査を終了した。17年度に西側半分約1,300m<sup>2</sup>、18年度に東側半分約1,200m<sup>2</sup>、計約2,500m<sup>2</sup>の調査を実施している。その後平成19年度まで整理作業を実施し、本書がその成果を示した発掘調査報告書である。（佐野）

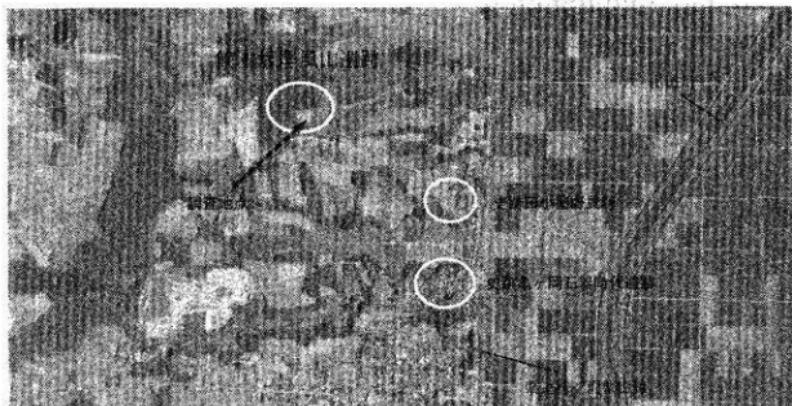


写真1 筒木坂屏風山遺跡の位置<平成16（2004）年撮影>

## 1-2 遺跡の位置と概要

青森県西部に位置し、 $253\text{ km}^2$  の面積を有するつがる市には、平成20（2008）年3月現在111ヶ所の遺跡が登録されている。地形的に見ると市の南部と西部は台地であり、それぞれ岩木山北麓に連なる丘陵、日本海と並行して南北20km・東西4kmにわたり展開する屏風山砂丘地帯となっている。その他の地域は津軽平野の一部を拊う低地で、広大な水田地帯が広がっている。

筒木坂屏風山遺跡は、屏風山砂丘地帯の中央部東側で、砂丘地帯の台地を東西方向に開析する谷が津軽平野に向かい口を開ける付近の、標高10数m~20m程度の東西に長い平坦な尾根上に位置する（図1）。遺跡の西側には、平安時代以降近年まで堆積した厚い砂丘沙が堆積しており、牛潟（1）遺跡の調査ではその厚さが10mにも達し、平安時代中期以前、さらには縄文時代の遺跡を完全に覆い尽くしている状況が確認された。

調査の結果、遺跡の主な年代は縄文中期後葉～後期前葉、いまからおよそ4,000年ほど前の集落遺跡であることが判明している。筒木坂屏風山遺跡周辺は、南北を谷によって開析された東西方向に長い平坦な尾根状地形が何本も平行に並んでいる。筒木坂屏風山遺跡の尾根から谷を挟んですぐ南の尾根には国史跡田小屋野貝塚が位置し、さらに谷を挟んで南側の尾根には国史跡龜ヶ岡石器時代遺跡が所在している。両史跡は筒木坂屏風山遺跡を中心として西及び南西方向半径約1kmの範囲内にある。国史跡田小屋野貝塚は、縄文前期中葉（約5,600年前）～中期中葉（4千数年前）の「円筒土器文化期」を中心とする遺跡である。貝塚は日本海側地方に少なく、しかも内陸の貝塚であることから、往時の内陸部の人々の生活を知る上での貴重な遺跡と位置付けられている（福井ほか1995）。国史跡龜ヶ岡石器時代遺跡は、日本一有名な縄文遺跡であり、その出土品のすばらしさから遺跡の中心年代である縄文晩期の北日本の文化が「龜ヶ岡文化」と称されることは人々によく知られている（市川ほか1984ほか）。龜ヶ岡遺跡・田小屋野貝塚は屏風山砂丘地帯の東縁部が津軽平野へと移り変わるその接点の部分に位置しているが、同じような場所には縄文遺跡が多く見られる。屏風山砂丘北部の縄文集落遺跡牛潟（1）・（2）遺跡や、南部の旧石器時代最末期の石器が出土した丸山遺跡（大湯2000）なども同じような場所に位置している。

一方つがる市南部に目を転じると、岩木山北麓に連なる丘陵の北端部が津軽平野と接する位置に、縄文前期中葉～中期中葉の円筒土器文化期の拠点的集落遺跡、行神遺跡がある。石神遺跡は現在の円筒土器研究の基本となっている遺跡で、円筒土器を中心とする219点の遺物が国重要文化財に指定されている。また石神遺跡でも縄文前期の円筒下層b式～d1式土器の層の間に介在する「盛土造構」に内包される汽水性のヤマトシジミの貝殻を主体とする小貝塚が発見されており、約6,000年前がピークとされる海面上昇、いわゆる「縄文海進」の際に、十三湖（古十三湖）の汽水域が現在のJR五能線のルートと五所川原市付近を結ぶラインまで及んでいたとされる説（山本2001ほか）を裏付けている。この場合、図1に示したつがる市の平野部分がほぼ水没していたことになる。岩木山北麓北端部や屏風山砂丘東縁部に前期以後の縄文遺跡が多く確認されるのは、この広がった汽水域からの恵みを背景に人々が暮らしていたからではないだろうかと考えられる。

（佐野）



図1 筒木坂屏風山遺跡と周辺の遺跡<青森県遺跡地図（1998）より改変作成>

## 1-3 調査要項

### 1. 調査目的

零細企業が実施する土砂（砂利）採取に伴う事前の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図り、地域の文化財の活用に資する。

### 2. 遺跡名及び所在地

筒木坂屏風山遺跡（どうぎざかびょうぶざんいせき）<青森県遺跡番号16040>  
青森県つがる市木造筒木坂屏風山地内

### 3. 調査期間・発掘調査地及び調査面積

平成17年度 事業期間 平成17（2005）年4月1日～平成18（2006）年3月31日

発掘調査 平成17（2005）年6月8日～9月30日

調査地点 青森県つがる市木造筒木坂屏風山246・247・251

調査面積 1,300m<sup>2</sup>

整理作業 平成17（2005）年10月1日～平成18（2006）年3月31日

平成18年度 事業期間 平成18（2006）年4月1日～平成19（2007）年3月31日

発掘調査 平成18（2006）年9月6日～11月30日

調査地点 青森県つがる市木造筒木坂屏風山246・247・251

調査面積 1,200m<sup>2</sup>

整理作業 平成18（2006）年12月1日～平成19（2007）年3月31日

平成19年度 事業期間 平成19（2007）年4月2日～平成20（2008）年3月31日

整理作業 平成19（2007）年4月2日～平成20（2008）年3月31日

### 4. 調査主体者及び補助事業者

調査主体者 つがる市教育委員会文化課（補助事業者 つがる市）

### 5. 調査組織

#### <調査体制>

調査主任 佐野 忠史 つがる市教育委員会文化課学委員・日本考古学協会会員

調査員 皆野 紀子 つがる市臨時職員・国學院大學大学院博士課程前期（平成17年度）

調査員 羽石 啓治 つがる市臨時職員（平成18年度）・現つがる市教育委員会文化課学芸員

発掘作業員 <平成17年度>石川新一 幸田勇治 横山物了 成田勇人 尾野信也 三橋詩金助 二上雅生 佐藤信子

鳥西繁子 佐藤浩夫

<平成18年度>半山勇治 横山物了 成田 執 畠沢京子 畠山サツ 館山章子 天坂詩子 福士悦子

鳥西由美子 畠西文子

整理作業員 <平成17年度>瓜田サツ 畠山千恵子 岩西慎也 畠西文子 畠西由美子 館山章子 舛賀谷徹子

天坂詩子 畠沢京子 成田 執 福士悦子 松崎深美

<平成18年度>石田（若西）榮子 畠山サツ 畠山千恵子 岩西慎也 畠西文子 館山章子 舛賀谷徹子

天坂詩子 畠沢京子 成田勇人 成田 清 福士悦子 館山初子

<平成19年度>瓜田千恵子 若西慎也 畠山章子 舛賀谷徹子 天坂詩子 成田勇人 成田 清

#### <調査指導機関>

文化庁文化財部記念物課・青森県教育厅文化財保護課

つがる市遺跡保存検討会

会長 村 越 嘉 弘前大学名誉教授

副会長 川 田 貞 日本地学教育学会会員・元青森県立弘前工業高校校長

委員 小山内 寿一 青森県文化財保護指導員

#### <事務局>

つがる市教育委員会文化課

教育長 小林千代喜

文化課長 尾野 史郎

教育次長 幸田 勝

副文化課長補佐 野坂 敏哉

教育推進室 川崎 亮仁（平成19年度から）

文化振興係長 斎藤有志子（平成19年度から）

主事 木村 吴（平成18年度まで）

### 6. 発掘調査報告書

平成17～18（2005～06）年度発掘調査分を、平成19（2007）年度に刊行する（300部）。

### 7. その他

調査によって得られた、遺物・写真・図面等の諸資料は、つがる市教育委員会が保管する。

（佐野）

## 1-4 調査の方法と経過

### 1. 調査の方法

本調査区では $5 \times 5$ mのグリッドを設定して調査を実施した。このグリッドラインは、調査区の形状に合わせて設定したため、国上方眼座標第X系のラインとは一致していない。グリッドは東西方向では西から東へA・B・C…とアルファベットを、南北方向では北から南へ1・2・3…と算用数字を付した。また、水準高(標高)にはT.P.(東京湾中等潮位)を基準とする値を用いた。

調査は、先ず南北方向及び東西方向にサブトレンチを設定し、人力で掘削して層の堆積状況等を確認した。その結果、調査区の大部分で層が大きく攪乱を受けていることが明らかとなり、さらに遺物量も少なかったことから、重機を用いて層位ごとに掘削を進めた。ただし、調査区内の一部では配石遺構の上層が地表に露出しているなどしたため、その際には人力による掘削によって慎重に調査を進めた。その他の場所では地山面まで重機で剥がしたが、途中で遺構プランが確認された際には、それ以後は人力による遺構の検出を行った。

遺物は層位ごとに取り上げ、遺構は半裁あるいはベルトを設定して土層断面を確認し、断面図・微細図作成や写真撮影を行いながら調査を進めた。なお遺物のドットマップも適宜作成している。平面図の縮尺は1/20を基本とし、微細図は1/10とした。また調査区全体図を平板測量にて1/200で作成した。遺構番号は、遺構の種類に関わりなく確認順に1号から順に付していく。また調査は2ヶ年度にわたったが、遺構番号をあえて別けることはせず、平成18年度の調査で最初に確認した遺構には、平成17年度の調査で最後に付した遺構番号に連続して確認した順に遺構番号を付していった。

土層は、基本層序については表土から下位に向かいローマ数字を、遺構覆土については上位から下位に向か算用数字を付していった。土層の色調については、『新版 標準土色帖』15版(小山ほか1995)を基準とした。

写真は35mmカラーリバーサルフィルム(36枚撮・ISO100)とカラーフィルム(36枚撮・ISO400)の2種類を用いて撮影した。また、各年度の調査終了時には高所作業車を使用して調査区全景写真の撮影を実施した。なお報告書掲載用遺物写真は、デジタル一眼レフカメラを用いて撮影した。

(佐野・菅野・羽石)

### 2. 調査の経過

2004(平成16)年10月13日、青森県教育局文化財保護課と木造町教育委員会、森田村教育委員会の担当者により今後の調査計画・方針について打ち合わせ会議を行い、合併後のつがる市教育委員会で平成17・18(2005・06)年度に発掘調査を実施することとなった。平成17(2005)年度は調査区西側約1,300m<sup>2</sup>、平成18(2006)年度は調査区東側約1,200m<sup>2</sup>の調査を実施した。出土遺物量はコンテナに換算して、平成17年度9箱、平成18年度3箱の計12箱分である。調査期間は平成17年度が6月8日から9月30日まで、平成18年度が9月6日から11月30日まで、通算約7ヶ月間の調査となった。

平成17(2005)年度の調査経過は以下の通りである。

6月8日、現地プレハブの設営、調査機材の搬入、調査区の草刈りなどをを行い、発掘調査を開始。6

月上旬から中旬にかけ、青森県教育委員会によって行なわれた試掘調査トレンチ（工藤2004）付近を掘削とともに、人力による表土掘削を進めた。これによって表土が著しく擾乱されている状況が確認されたため、6月下旬からは重機による表土の掘削を進めるとともに、遺構・遺物の確認や精査を実施。7月上旬～8月下旬にかけては、各遺構の精査・図化作業を進めた。

9月上旬以降は平面図や等高線図の作成など図化作業を中心に行なった。なお、9月22日に高所作業車による調査区全景写真の撮影を実施。9月30日にしてすべての作業を終え、調査機材・出土遺物の搬出、プレハブの撤去を行い、発掘調査の全日程を終了した。

平成18（2006）年度の調査経過は以下の通りである。

9月6日、現地プレハブの設営、調査機材の搬入、調査区の草刈りなどをを行い、発掘調査を開始。9月上旬～下旬にかけては人力による表土掘削で遺構や基本層序の確認を行うとともに、重機による表土の掘削を進めた。10月上旬から下旬にかけては各遺構の精査・図化作業を実施。11月上旬以降は遺構の精査とともに、平面図や等高線図の作成など図化作業を中心に行なった。

11月30日、高所作業車による調査区全景写真を撮影。調査機材・出土遺物の搬出、プレハブの撤去を行い、

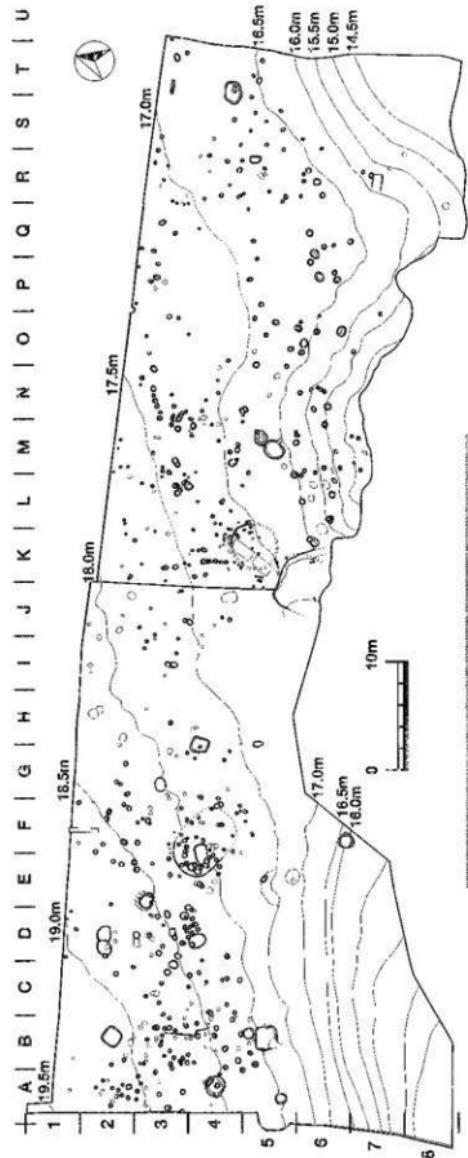


図2 平成17・18（2005・06）年度 調査区全測図

発掘調査の全日程を終えた。

平成17・18年度とも、発掘調査終了後に遺物の洗浄や注記、図面・写真整理などの基礎的整理作業を実施している。報告書刊行に向けた本格的整理作業は、平成19（2007）年度に実施した。

（佐野・菅野・羽石）

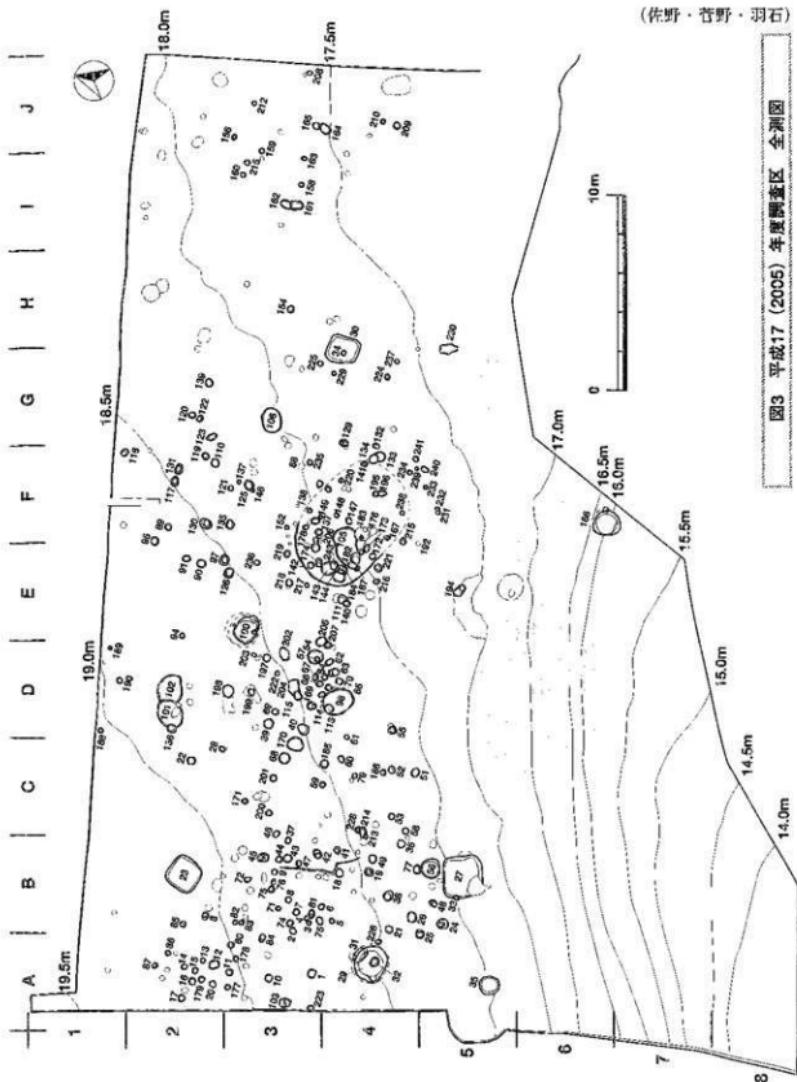


図3 平成17（2005）年度調査区 全測図

— J | K | L | M | N | O | P | Q | R | S | T | U

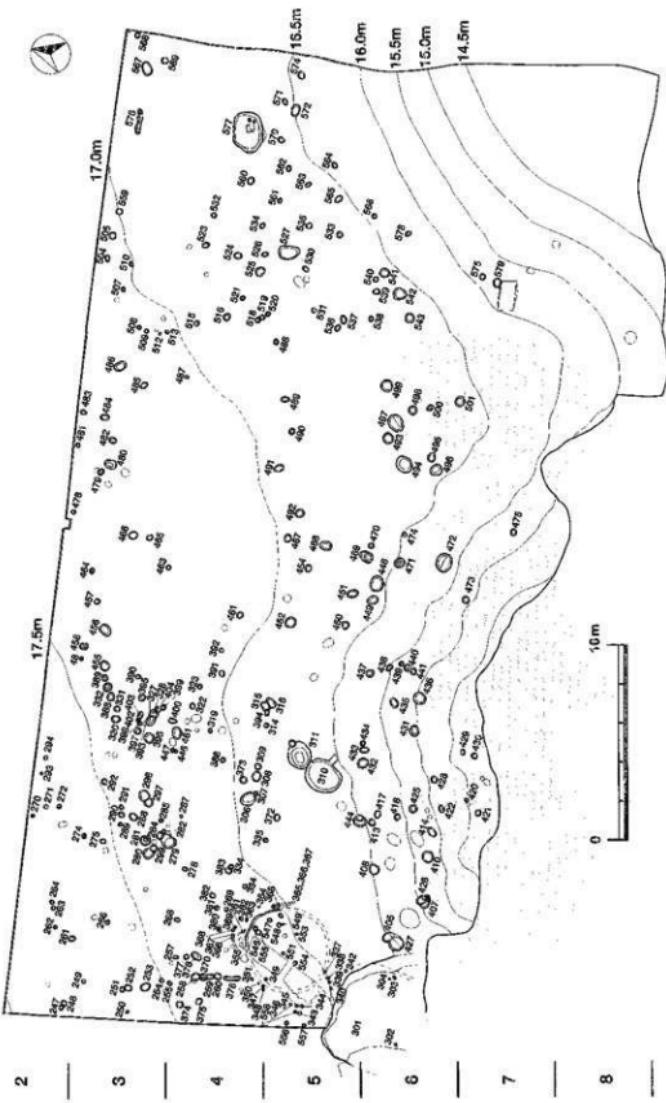


図4 平成18(2006)年度 岡塚区全測図

表2 平成18(2006)年度調査区 稲出過橋リスト1

番号	グリッド	種 別	品 种	番号	グリッド	種 別	品 种	番号	グリッド	種 別	品 种
247号	K2	ビット(性交?)	平安	347号	K4～K5	ビット	中耕末～後期初	459号	N6	ビット	中耕末～後期期
248号	K2	ビット(林木?)	平安	348号	K4～K5	ビット	中耕末～後期初	440号	N6	ビット	中耕末～後期期
249号	K3	ビット	説明無	349号	K5	ビット(林木?)	中耕末～後期初	441号	N6	ビット	中耕末～後期期
250号	K3	ビット	説明無	350号	K4	ビット	中耕末～後期初	444号	I3～M4	ナシ	後期初
251号	K3	ビット(林木?)	平安	351号	K4	ビット	中耕末～後期初	446号	M4	ビット	後期初
252号	K3	ビット(林木?)	平安	355号	K4	ビット	中耕末～後期初	447号	M4	ビット	後期初
253号	K3	ビット(林木?)	平安	356号	K4	ビット	中耕末～後期初	448号	O6	ナシ	中耕末～後期期
254号	K3	ビット	中耕末～後期初	357号	K4	ビット	中耕末～後期初	449号	O6	ナシ	小耕末～後期初
255号	K4	ビット	中耕末～後期初	358号	K4	ビット	中耕末～後期初	450号	N5～O5	ビット	中耕末～後期初
257号	K4	ビット	平安	359号	K4	ビット	中耕末～後期初	451号	O5	ナシ	中耕末～後期初
258号	K4	ビット(林木?)	平安	361号	K4	ビット	中耕末～後期初	452号	N3～O3	ナシ	中耕末～後期初
259号	K4	ビット(林木?)	平安	362号	X4	ビット	中耕末～後期初	454号	O5	ビット	中耕末～後期初
260号	K4	ビット(林木?)	平安	363号	K4	ビット	中耕末～後期初	455号	L4	北坂	後期初
261号	K3	ビット	平安	364号	L4	ビット	中耕末～後期初	456号	N3	ナシ	中耕末～後期初
262号	K2	ビット	説明無	365号	L5	ビット	中耕末～後期初	457号	O3	ビット	後期初
263号	L2	ビット	説明無	366号	L5	ビット	中耕末～後期初	458号	N3	上坂	中耕末～後期初
264号	L2	ビット	中耕末～後期初	367号	L5	ビット	中耕末～後期初	461号	O4	ビット	中耕末～後期初
266号	K3	ビット	中耕末～後期初	368号	L5	ビット	中耕末～後期初	463号	M5	ビット	中耕末～後期初
268号	K4	ビット	中耕末～後期初	369号	K5～L5	ビット	中耕末～後期初	464号	O3	ビット	中耕末～後期初
269号	L4	ビット	後期初	370号	K4	ビット(林木?)	平安	465号	O3	ビット	中耕末～後期初
270号	M2	ビット	小耕末～後期初	372号	S3～M5	ビット	中耕末～後期初	466号	O3	上坂	中耕末～後期初
271号	M2	ビット	中耕末～後期初	373号	M4	ビット	中耕末～後期初	467号	O5	ナシ	後期初
272号	M2	ビット	中耕末～後期初	374号	K4	上坂	中耕末～後期初	468号	O5	上坂	後期初
274号	L1	ビット	中耕末～後期初	375号	K4	ビット	中耕末～後期初	469号	O6	上坂	後期初
275号	L3	ビット	後期初	376号	K4	サカシ	平安	470号	O6	ビット	中耕末～後期初
279号	L3～L4	ナシ	説明無	377号	K4	ビット	平安	471号	O6	ナシ	後期初
280号	L3	上坂	説明無	378号	K4	ビット	平安	472号	O6	ナシ	中耕末～後期初
281号	L3	ナシ	後期初	380号	K4	ビット	平安	473号	O7	ビット	中耕末～後期初
282号	L3～L4	ビット	説明無	381号	L4	ビット	後期初	474号	O6	ビット	後期初
285号	L3	ビット	後期初	382号	L4	ビット	後期初	475号	O7	ビット	後期初
287号	M4	ビット	中耕末～後期初	383号	L4	ビット	後期初	478号	P3	ビット	中耕末～後期初
288号	L3～M3	ナシ	中耕末～後期初	384号	L4	ビット	後期初	479号	P3	ビット	後期初
289号	L3	ビット	中耕末～後期初	386号	M4	ビット	中耕末～後期初	480号	P3	上坂	後期初
290号	L3～M3	ビット	後期初	388号	N3	ナシ	後期初	481号	P3	ビット	後期初
291号	M3	ビット	後期初	389号	N3	ビット	中耕末～後期初	482号	P3	ビット	後期初
292号	M3	ビット	小耕末～後期初	390号	N3	ビット	後期初	483号	Q3	ビット	中耕末～後期初
293号	M2	ビット	中耕末～後期初	391号	N4	ビット	平安	484号	Q3	上坂	後期初
294号	M2	ビット	中耕末～後期初	392号	N4	ビット	後期初	485号	Q3	上坂	小耕末～後期初
297号	M3	ナシ	説明無	394号	N5	ビット	中耕末～後期初	486号	Q3	ナシ	後期初
298号	M3	ナシ	後期初	395号	N5	ビット	後期初	487号	Q4	ビット	無耕末～自
299号	L3	ナシ	後期初	396号	M3	上坂	後期初	488号	Q5	ビット	中耕末～後期初
301号	J5～K6	後期初	説明無	397号	M3	ビット	後期初	489号	Q5	ビット	中耕末～後期初
302号	J6	ビット(林木?)	後期初	398号	M3	ビット	後期初	490号	P5	ビット	後期初
303号	K6	ビット(林木?)	後期初	399号	K3～N4	ビット	平安	491号	P5	上坂	後期初
304号	K6	ビット(林木?)	後期初	400号	M4～N4	ビット	後期初	492号	P5	ナシ	中耕末～後期初
306号	M4	ナシ	上坂	401号	M4	上坂	後期初	493号	P6	ナシ	中耕末～後期初
307号	M4	ビット	中耕末～後期初	402号	M5～N3	ビット	後期初	494号	P6	上坂	中耕末～後期初
308号	M4	ナシ	上坂	403号	N3	ビット	後期初	495号	P6	上坂	中耕末～後期初
309号	M4	ビット	小耕末～後期初	404号	N3	ビット	後期初	496号	P6	七坂	中耕末～後期初
310号	M5	ビット	後期初	405号	R6	ナシ	中耕末～後期初	497号	P6	七坂	中耕末～後期初
311号	M5	後土生	平安	407号	I6	上坂	中耕末～後期初	498号	Q6	ナシ	中耕末～後期初
314号	M5	ビット	中耕末～後期初	408号	I6	上坂	中耕末～後期初	499号	Q6	上坂	後期初
315号	N4～N5	ナシ	上坂	410号	I6	ナシ	中耕末～後期初	500号	Q7	ビット	後期初
316号	N5	ナシ	中耕末～後期初	413号	L6	ビット	後期初	501号	Q7	上坂	後期初
319号	M4	ビット	小耕末～後期初	414号	L6	土壤	中耕末～後期初	504号	R3	ビット	後期初
322号	N4	ビット	後期初	417号	M6	ビット	不明	505号	R3	ビット	後期初
323号	N4	ビット	後期初	418号	M6～M6	ビット	中耕末～後期初	507号	R3	ビット	後期初
327号	M3～N3	ナシ	説明無	420号	M7	ビット	中耕末～後期初	508号	R3	ビット	後期初
328号	N3	ナシ	後期初	421号	M7	ビット	後期初	509号	Q3～R3	ビット	後期初
330号	M3～N3	ナシ	後期初	422号	M6	ビット	中耕末～後期初	510号	R3	ビット	後期初
331号	N3	ビット	中耕末～後期初	425号	M6	ビット	中耕末～後期初	512号	Q3	ビット	後期初
332号	N1	ナシ	後期初	426号	L6	上坂	中耕末～後期初	513号	Q4	ビット	後期初
334号	L4	ビット	後期初	427号	K6	ナシ	中耕末～後期初	515号	R4	ビット	後期初
335号	L5	ビット	中耕末～後期初	428号	M6	ビット	中耕末～後期初	516号	R4	ビット	後期初
336号	K5	ビット	説明無	429号	M7	ビット	中耕末～後期初	518号	R4～R5	ビット	後期初
337号	K5	ビット(林木?)	中耕末～後期初	430号	M7	ビット	後期初	519号	R4～R5	ビット	中耕末～後期初
338号	K5	ビット	中耕末～後期初	431号	M6	ナシ	後期初	520号	R5	ビット	後期初
339号	K5	ビット	中耕末～後期初	432号	M5～M6	ナシ	中耕末～後期初	521号	R4	ビット	後期初
340号	K5	ビット	中耕末～後期初	433号	M6	ナシ	中耕末～後期初	523号	R4	ビット	後期初
342号	K5	ビット	中耕末～後期初	434号	N6	ナシ	中耕末～後期初	524号	R4	ビット	中耕末～後期初
343号	J5～K5	ビット	中耕末～後期初	435号	N6	上坂	中耕末～後期初	525号	R4～R5	ナシ	後期初
344号	K5	ビット	中耕末～後期初	436号	N6	上坂	中耕末～後期初	526号	R5	ビット	後期初
345号	N5	ビット	中耕末～後期初	437号	N6	ビット	中耕末～後期初	527号	R5	ナシ	後期初
346号	Z5	ビット	中耕末～後期初	438号	N6	ビット	中耕末～後期初	530号	H5	ビット	中耕末～後期初

表3 平成18（2006）年度調査区 検出遺構リスト2

番号	グリッド	種別	時代	番号	グリッド	種別	時代
531号	R5	ピット	中期末～後期初	549号	K5	ピット	中期末～後期初
532号	S4	ピット	後期初	551号	K5	ピット	中期末～後期初
533号	R5	ピット	後期初	553号	K5	ピット	中期末～後期初
534号	S5	ピット	中期末～後期初	554号	K5	ピット	中期末～後期初
535号	S5	ピット	後期初	555号	K4	ピット	中期末～後期初
536号	Q5～R5	ピット	後期初	556号	I5	ピット	中期末～後期初
537号	R5	土塁	後期初	557号	I5	ピット	中期末～後期初
538号	M6	ピット	後期初	558号	I5～K5	ピット	中期末～後期初
539号	R6	ピット	後期初	559号	S3	ピット	後期初
540号	R6	ピット	後期初	560号	S4	ピット	後期初
541号	R6	土塁	後期初	561号	S5	ピット	後期初
542号	R6	土塁	後期初	562号	S5	ピット	後期初
543号	R6	土塁	後期初	563号	S5	ピット	中期末～後期初
546号	K4	ピット	中期末～後期初	564号	S5	ピット	中期末～後期初
547号	K5	ピット(柱穴?)	中期末～後期初	565号	S5	土塁	中期末～後期初
548号	K5	ピット	中期末～後期初	566号	S6	ピット	後期初

写真2 平成17（2005）年度調査区全景（南から）

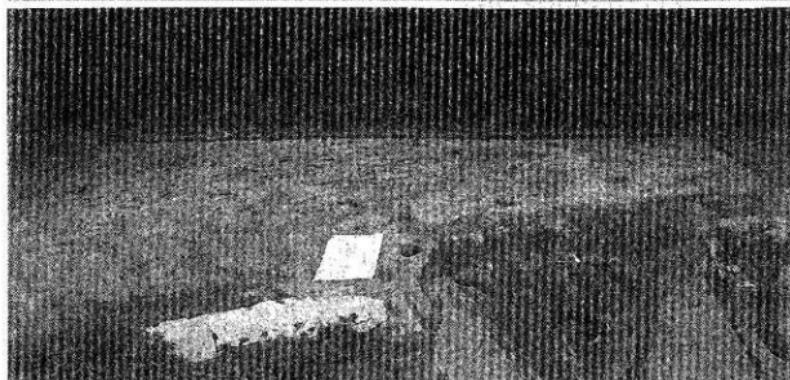
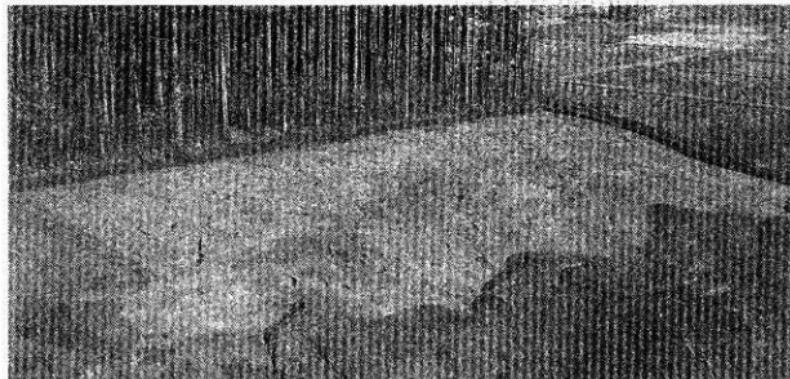


写真3 平成18（2006）年度調査区全景（南西から）



# 筒木坂屏風山遺跡

平成17～18（2005～2006）年度発掘調査報告書

青森県つがる市教育委員会

## 第2章 基本層序

今回の調査地点では、I～VII層に及ぶ7層の層序が確認された。しかし、調査地点が丘陵平坦面から南へ向かう傾斜面上に及ぶため、堆積層は北側平坦面で薄く、南側の傾斜地に向かうにつれ厚くなっていた。また北側平坦面では、後世の擾乱により堆積層の薄さにさらに拍車がかかっていた。

I層は擾乱層であり、調査区全体の表面を覆っている。主成分は砂質の黒色土、いわゆる「クロスナ」である。樹木の根の侵入が甚だしく、層のしまりは弱い。この地区は江戸時代に日本海と並行して屏風のように植林された砂防林、いわゆる「屏風山」地帯の一角である。植林は江戸時代以降近年まで継りかえされており、これらを主要因とした擾乱層であると考えられた。地山付近まで本層に覆われるところもあり、出土した縄文土器片等は、後後に下位層から巻き上げられたものである。

II層は砂質の黒色土（クロスナ）層であり、江戸時代以降に植林等が行われる以前に堆積した層と考えられる。調査区北東部を除く広範囲で確認された。地表面からの樹木の根が入り込んでいる。若干の縄文土器片を含むが、これらは本来この層に含まれていたものではなく、下位層からの流れ込み等によるものである。

なお、周辺の遺跡の状況や今回の調査で平安時代の遺構が確認されていることから判断すると、II層と以下に述べるIII層の間には平安時代の遺物包含層が存在したと考えられるが、確認出来なかった。

III層はシルト質の暗褐色土層であり、縄文時代中期末葉～後期初頭の遺物包含層と判断された。北西部では本来のIII層が後世に擾乱を受けていた様相もみられたためIII'層としたが、包含する遺物の年代にIII層との差は認められない。縄文中期末葉～後期初頭段階の遺構の多くは、上部を本層に覆われ、後期初頭段階の遺構は本層内から掘り込まれ、後期初頭～前葉段階の遺構は本層上面付近から掘り込まれていた。

IV層はシルト質の褐色土層であり、調査区全体に広く堆積している。調査区西側や南東部斜面においてIII層との境界付近から縄文時代中期末葉～後期初頭の縄文土器片や石器が少量出土している。

V層はシルト質の黒褐色土層であり、調査区南東部斜面でのみ確認されている。標高の高い平坦面の土層が南東部斜面に流れ込んで形成された再堆積層と考えられた。

VI層は黄褐色粗粒火山灰土層であり、千曳ローム（八戸火山灰上部）相当層と考えられる。調査区南東部斜面でのみ確認され、標高の高い平坦面には見られない。本来は平坦面にも堆積し下位のVII層の上部を覆っていたものが、風雨等にさらされ斜面に流れ込んで形成されたものと考えている。遺物は出土していない。

VII層は、今回の調査地点での地山面を形成する明褐色の粘土質ローム土層である。筒木坂屏風山遺跡の位置する屏風山砂丘地帯から南部の岩木山北麓丘陵上まで広く分布する、いわゆる「褐色粘土質ローム層」に相当する。

（佐野）

卷頭写真1 調査区全景と縄文時代の遺構1



2005・2006<平成17・18>年度 調査区全景（南から）



2005<平成17>年度 調査区西侧全景（南東から）

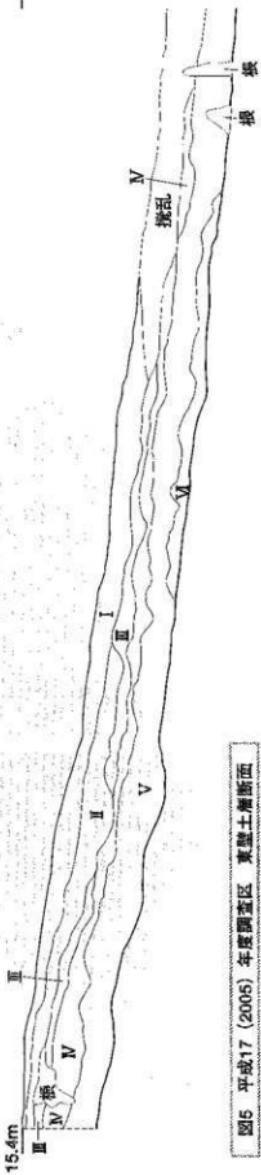


245号（住居跡） 炉跡検出状況（東から）

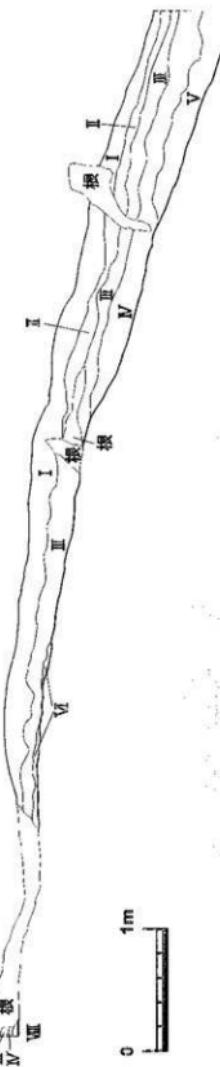


336号（住居跡） 完成状況（南から）

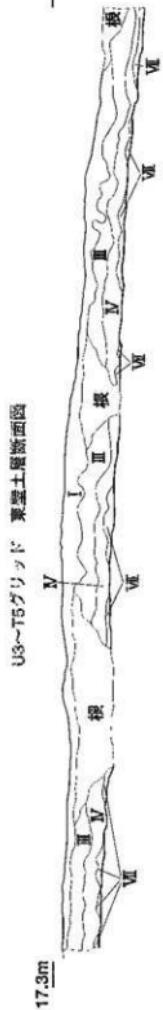
図5 平成17(2005)年度調査区 東壁土層断面図



T6~T8グリッド 東壁土層断面図



T5~T6グリッド 東壁土層断面図

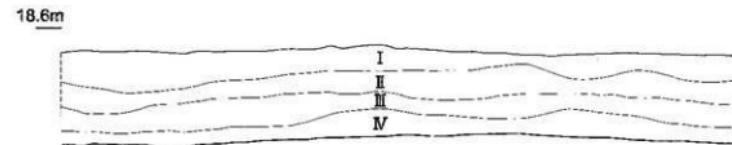


U3~T5グリッド 東壁土層断面図

E1～F1グリッド 北壁土層断面図



J2グリッド 北壁土層断面図



P3グリッド 北壁土層断面図

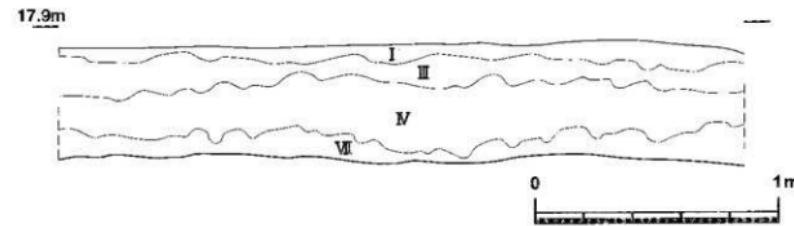


図6 平成17・18（2005・06）年度調査区 北壁土層断面

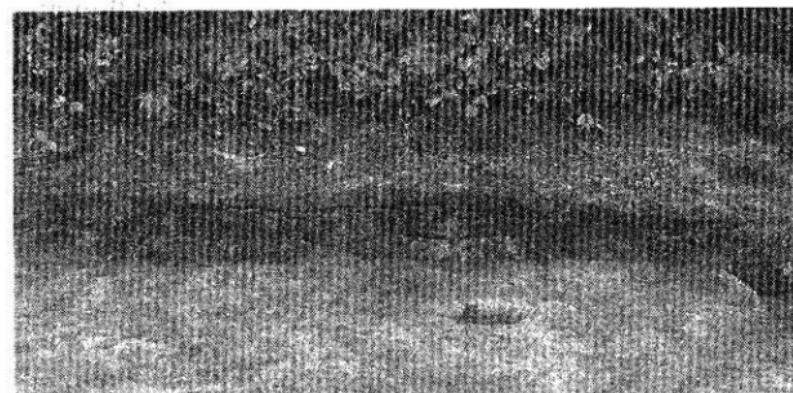


写真4 E1～F1グリッド北壁土層断面（南から）



写真5 T5～T6グリッド北壁土層断面（南から）



写真6 T6～T7グリッド北壁土層断面（南から）

### 第3章 遺構外出土遺物

縄文土器を中心とする遺構外出土遺物の多くは、I層より出土したもので、後世の擾乱によりおそらくⅢ層より巻き上げられたものである。多くの遺物は平成17（2005）年度の調査で出土した調査区西側のもので、平成18（2006）年度調査区である東側平坦面や、南側の傾斜面に向かうとほとんど出土しなくなる。出土遺物の多くは縄文土器片であり、最も古いもので縄文前期末葉の円筒下層 d I式土器片がごく少量出土している。このほか中期中葉の円筒上層 c 式土器や、最花式土器などの中期後葉の I式土器片、後期前葉の十腰内 I式土器も出土しているが、主体となるのは、Ⅲ層の帰属年代である中期末葉～後期初頭の土器であった。

のことから調査区周辺では、縄文前期末葉から人々が活動をはじめ、中期末葉～後期初頭になって集落としての利用が本格化し、縄文後期前葉まで継続的に人々が活動するという状況がみてとれる。

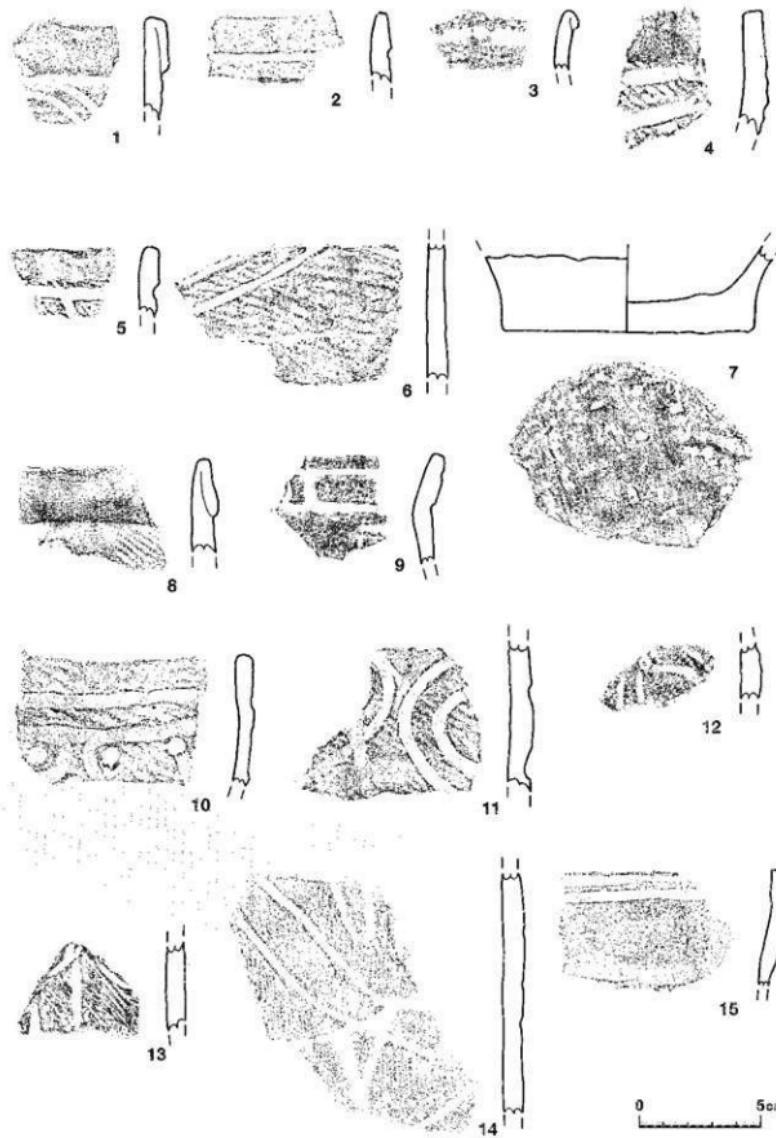


図7 遺構外出土遺物①

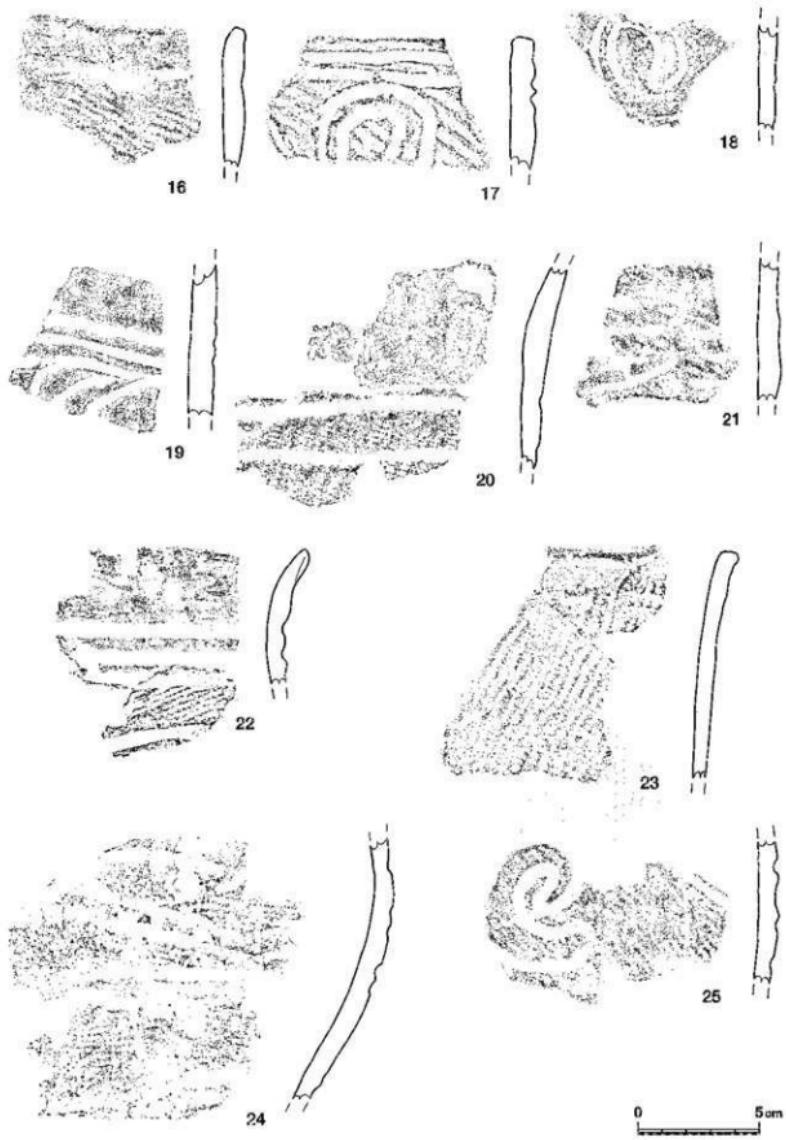


図8 遺構外出土遺物②

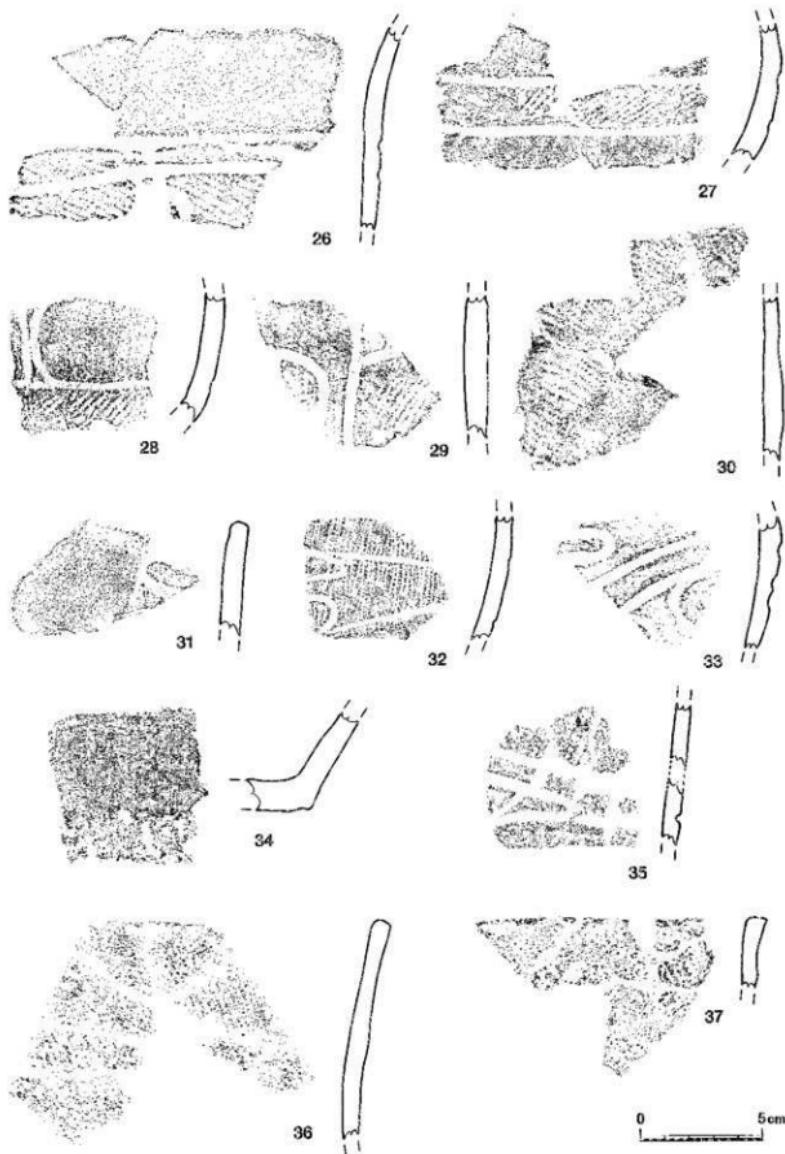


图9  遗物出土遗物③

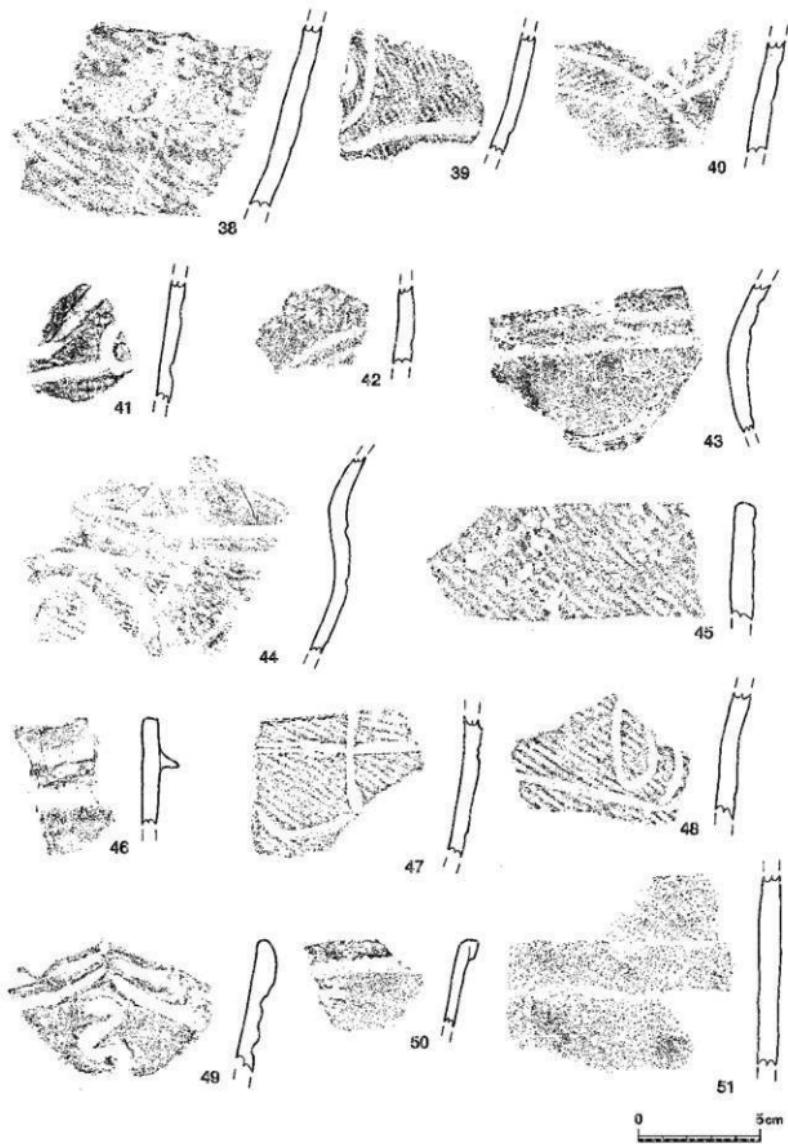


図10 速清外出土遺物④

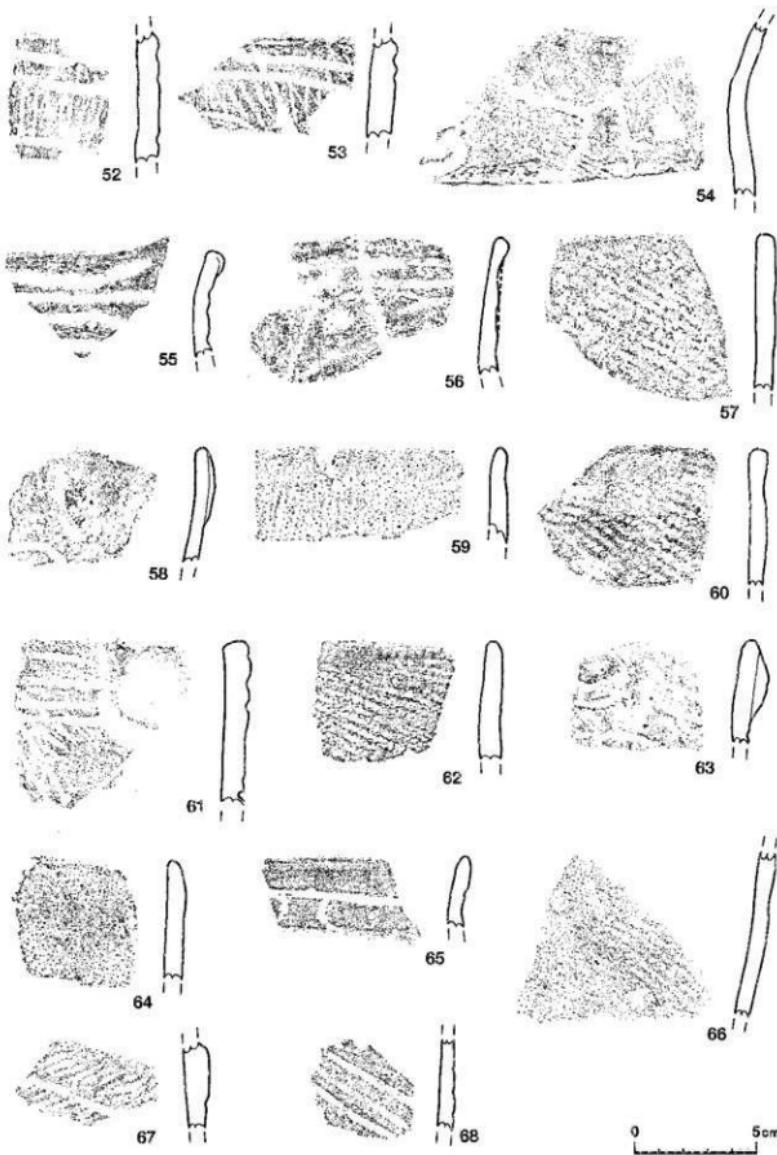


图11 造模外出土遗物⑤

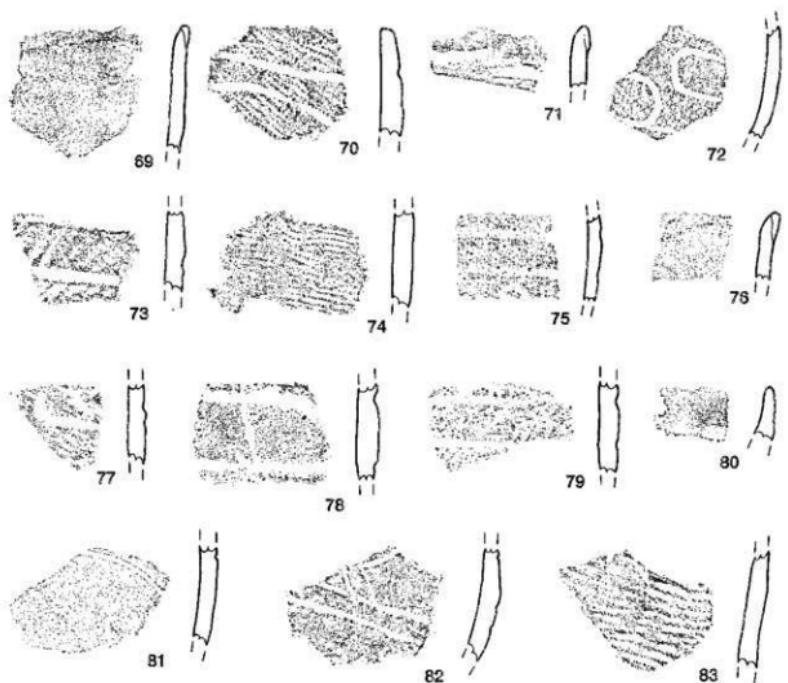


図12 造構外出土遺物⑥

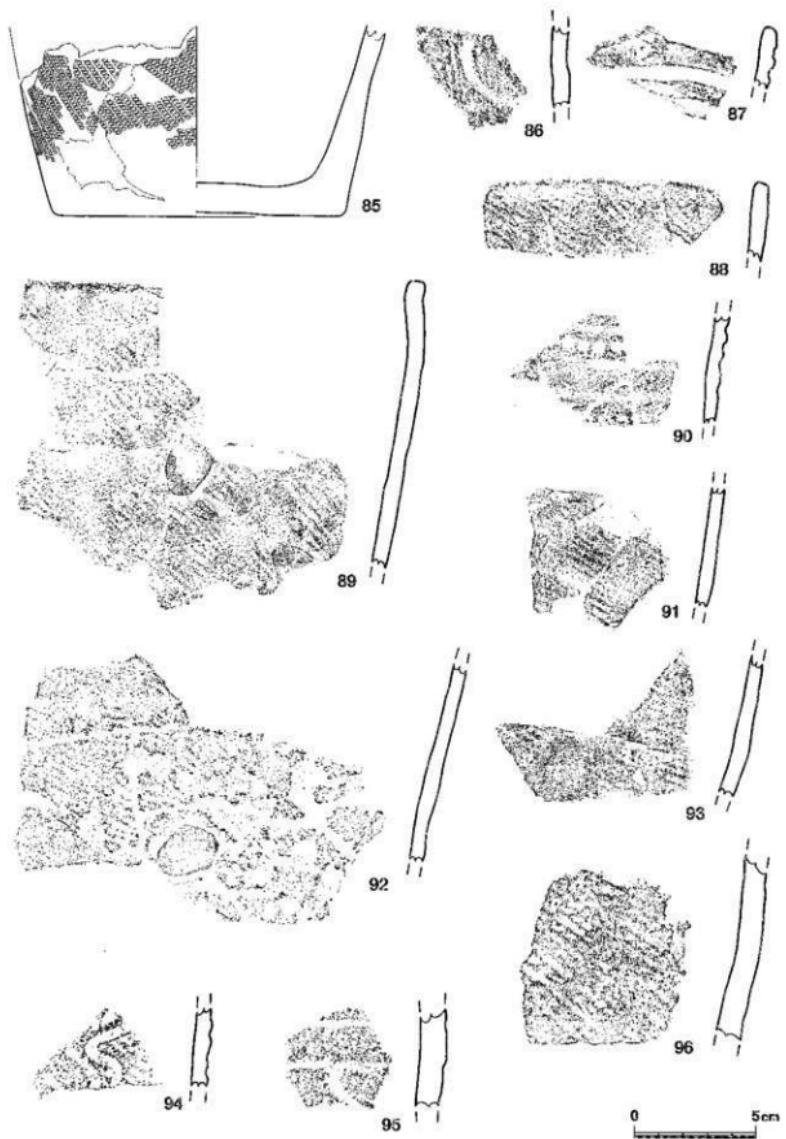


图13 造構外出土遺物⑦



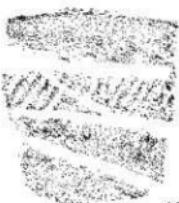
97



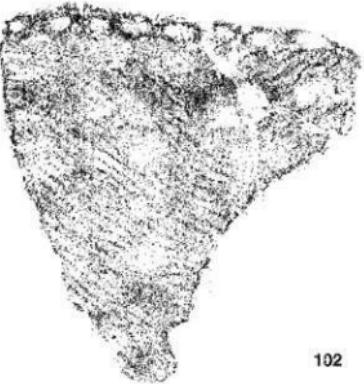
98



99



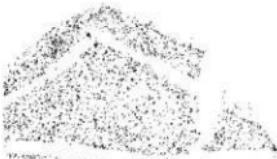
100



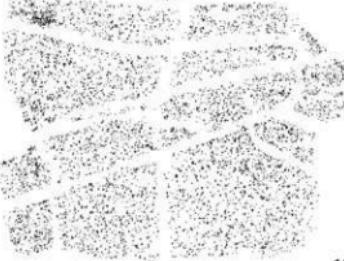
102



101



103



104

図14 造構外出土遺物③

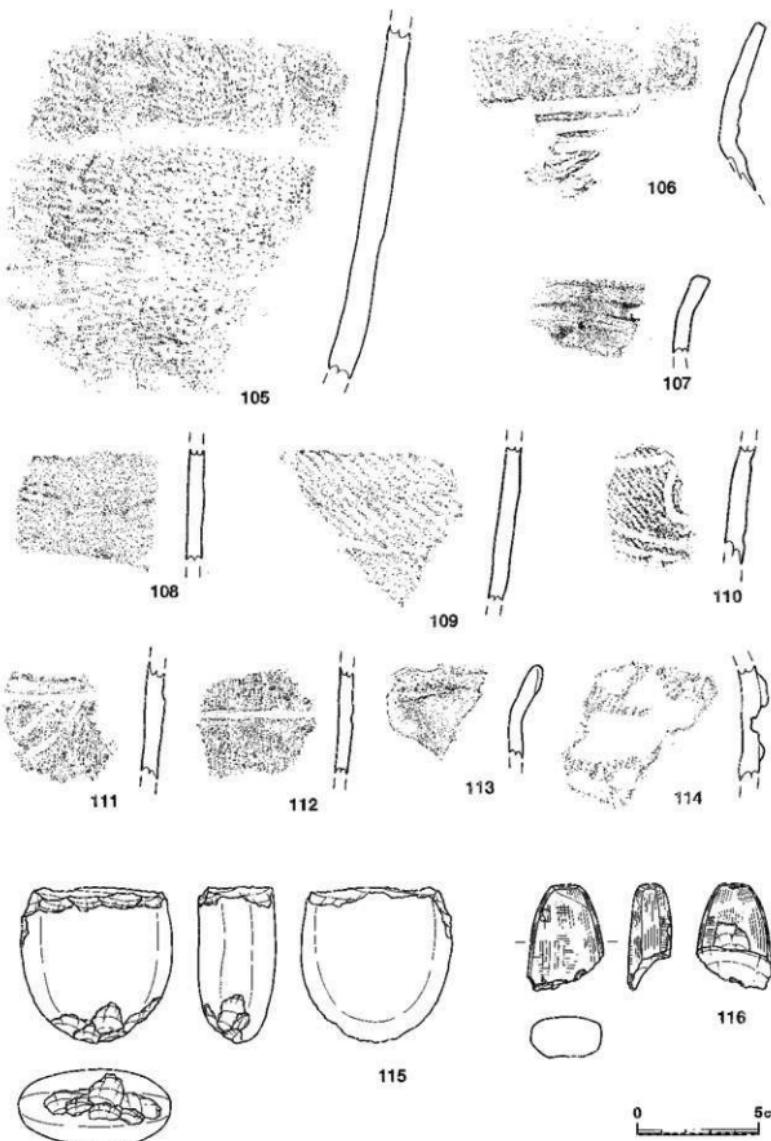


図15 造構外出土遺物⑨

圖16 遷都外出土遺物①

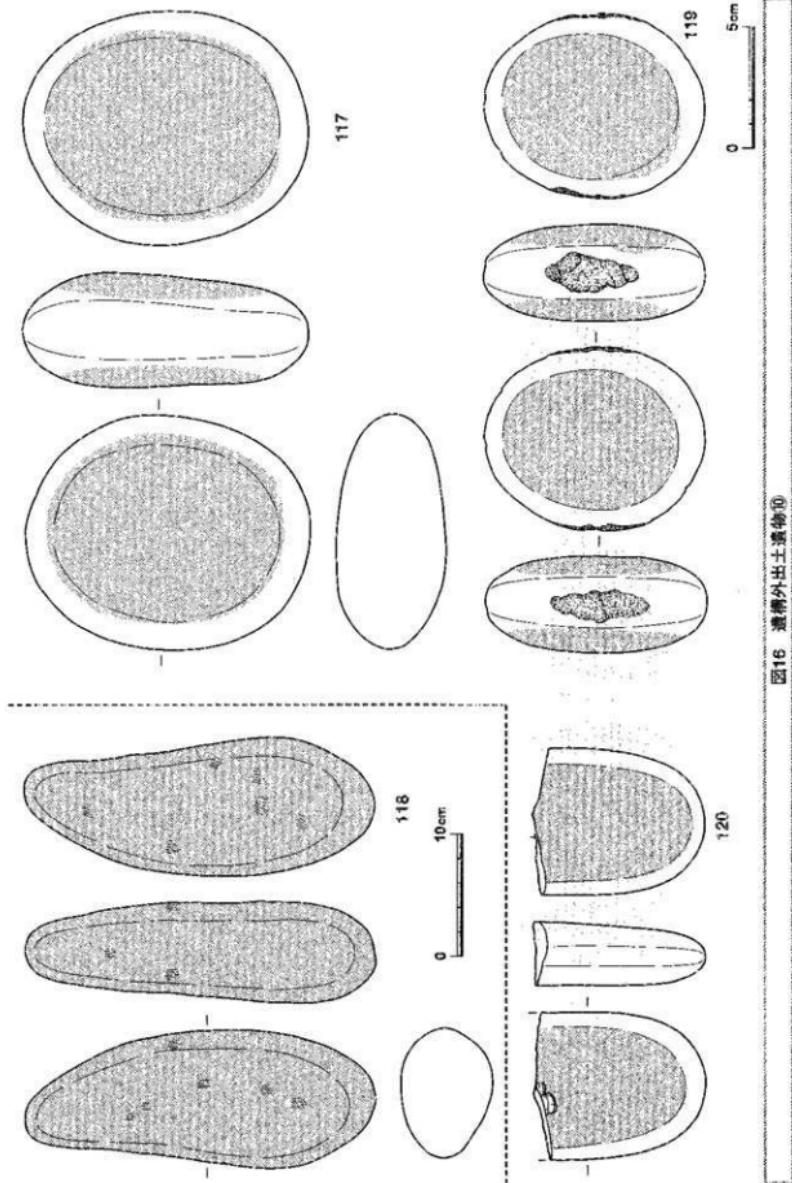


图17 造桥外出土遗物①

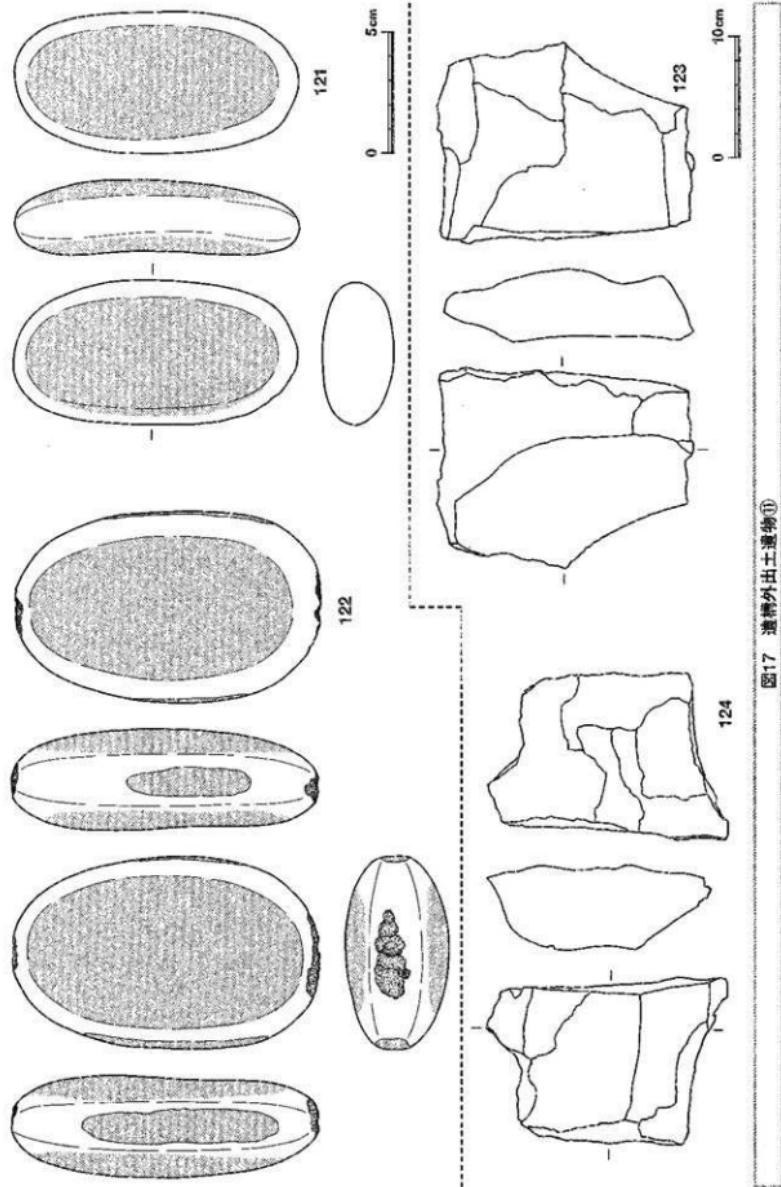


图 6 造境外出土遗物(2)

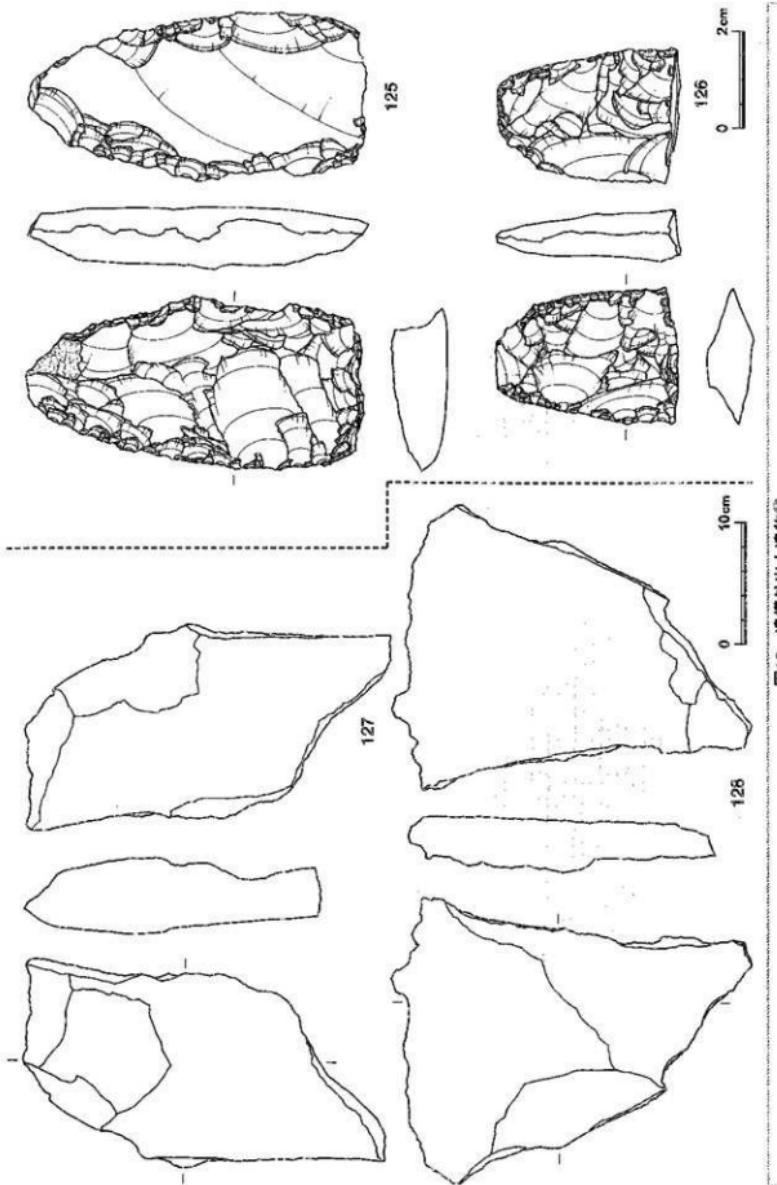


表4 造幣外出土遺物頃察表①

器別	器形	部位	ブリット	層位	年代	型式	備考
1. 漢文土器	深鉢形土器	口縁	A-6	I層	後期初頭		
2. 漢文土器	深鉢形土器	口縁	A-6	I層	後期初頭		
3. 漢文土器	深鉢形土器	口縁	A-6	I層	後期初頭		
4. 漢文土器	深鉢形土器	口縁	A-6	I層	中期末葉～後期初頭		
5. 漢文土器	深鉢形土器	口縁	A-6	I層	中期末葉～後期初頭		
6. 漢文土器	深鉢形土器	刷	A-6	I層	後期初頭		
7. 漢文土器	深鉢形土器	底	A-6	I層	後期初頭		
8. 漢文土器	深鉢形土器	口縁	B-5	I層	中期末葉～後期初頭		底部に調代すり消し痕
9. 漢文土器	深鉢形土器	口縁	B-6	I層	後期初頭		
10. 漢文土器	深鉢形土器	口縁	B-6	I層	後期初頭		
11. 漢文土器	深鉢形土器	刷	B-6	I層	後期初頭		
12. 漢文土器	深鉢形土器	刷	C-5	I層	中期末葉～後期初頭		
13. 漢文土器	深鉢形土器	刷	C-5	I層	中期末葉～後期初頭		
14. 漢文土器	深鉢形土器	刷	D-2	I層	中期末葉～後期初頭		
15. 漢文土器	深鉢形土器	口縁	D-6	I層	中期末葉～後期初頭		
16. 漢文土器	深鉢形土器	口縁	D-6	I層	中期末葉～後期初頭		
17. 漢文土器	深鉢形土器	口縁	D-6	I層	中期末葉～後期初頭		
18. 尚文土器	深鉢形土器	刷	D-6	I層	中期末葉～後期初頭		
19. 尚文土器	深鉢形土器	刷	D-6	I層	中期末葉～後期初頭		
20. 尚文土器	深鉢形土器	刷	D-6	I層	中期末葉～後期初頭		
21. 尚文土器	深鉢形土器	刷	D-6	I層	中期末葉～後期初頭		
22. 尚文土器	深鉢形土器	口縫～刷	E-4	I層	中期末葉～後期初頭		
23. 尚文土器	深鉢形土器	口縫～刷	E-4	I層	中期末葉～後期初頭		
24. 尚文土器	深鉢形土器	刷	E-4	I層	中期末葉～後期初頭		
25. 鴨文土器	深鉢形土器	刷	E-4	I層	中期末葉～後期初頭		
26. 鴨文土器	深鉢形土器	刷	E-4	I層	中期末葉～後期初頭		
27. 鴨文土器	深鉢形土器	刷	F-2	I層	中期末葉～後期初頭		
28. 鴨文土器	深鉢形土器	刷	F-2	I層	中期末葉～後期初頭		
29. 鴨文土器	深鉢形土器	刷	F-2	I層	中期末葉～後期初頭		
30. 鴨文土器	深鉢形土器	刷	F-2	I層	中期末葉～後期初頭		
31. 尚文土器	深鉢形土器	口縫～刷	F-3	I層	中期末葉～後期初頭		
32. 尚文土器	深鉢形土器	刷	F-3	I層	中期末葉～後期初頭		
33. 尚文土器	深鉢形土器	刷	F-3	I層	中期末葉～後期初頭		
34. 尚文土器	深鉢形土器	底	F-3	I層	中期末葉～後期初頭		
35. 尚文土器	深鉢形土器	刷	F-4	I層	中期末葉～後期初頭		
36. 尚文土器	深鉢形土器	刷	G-2	I層	中期末葉～後期初頭		
37. 尚文土器	深鉢形土器	刷	G-2	I層	中期末葉～後期初頭		
38. 尚文土器	深鉢形土器	刷	G-2	I層	中期末葉～後期初頭		
39. 尚文土器	深鉢形土器	刷	G-2	I層	中期末葉～後期初頭		
40. 尚文土器	深鉢形土器	刷	G-2	I層	中期末葉～後期初頭		
41. 尚文土器	深鉢形土器	刷	G-2	I層	中期末葉～後期初頭		
42. 尚文土器	深鉢形土器	刷	G-3	I層	中期末葉～後期初頭		
43. 尚文土器	深鉢形土器	刷	G-5	I層	中期末葉～後期初頭		
44. 尚文土器	深鉢形土器	刷	G-5	I層	中期末葉～後期初頭		
45. 尚文土器	深鉢形土器	口縁	H-2	I層	中期末葉～後期初頭		
46. 尚文土器	深鉢形土器	口縁	H-2	I層	中期末葉～後期初頭		
47. 尚文土器	深鉢形土器	刷	H-2	I層	中期末葉～後期初頭		
48. 尚文土器	深鉢形土器	刷	H-2	I層	中期末葉～後期初頭		
49. 尚文土器	深鉢形土器	刷	H-3	I層	後期初頭		
50. 尚文土器	深鉢形土器	口縫	H-3	I層	中期末葉～後期初頭		
51. 尚文土器	深鉢形土器	刷	H-3	I層	中期末葉～後期初頭		
52. 尚文土器	深鉢形土器	刷	H-3	I層	中期末葉～後期初頭		
53. 尚文土器	深鉢形土器	刷	H-3	I層	中期末葉～後期初頭		
54. 尚文土器	深鉢形土器	刷	H-3	I層	中期末葉～後期初頭		
55. 尚文土器	深鉢形土器	口縫	H-4	I層	後期初頭		
56. 尚文土器	深鉢形土器	口縫～刷	H-5	I層	中期末葉～後期初頭		
57. 尚文土器	深鉢形土器	刷～刷	I-2	I層	中期末葉～後期初頭		
58. 尚文土器	深鉢形土器	口縫	I-2	I層	後期初頭		
59. 尚文土器	深鉢形土器	口縫	I-2	I層	中期末葉～後期初頭		
60. 尚文土器	深鉢形土器	口縫～刷	I-3	I層	中期末葉～後期初頭		
61. 尚文土器	深鉢形土器	口縫	I-3	I層	中期末葉～後期初頭		
62. 尚文土器	深鉢形土器	口縫	O-3	I層	後期初頭		
63. 尚文土器	深鉢形土器	口縫	Q-3	I層	後期初頭		
64. 尚文土器	深鉢形土器	口縫	Q-5	I層	中期末葉～後期初頭		
65. 尚文土器	深鉢形土器	口縫	R-3	I層	後期初頭		
66. 尚文土器	深鉢形土器	刷	R-3	I層	中期末葉～後期初頭		
67. 尚文土器	深鉢形土器	刷	R-4	I層	中期末葉～後期初頭		
68. 尚文土器	深鉢形土器	刷	R-4	I層	中期末葉～後期初頭		
69. 尚文土器	深鉢形土器	口縫	S-3	I層	中期末葉～後期初頭		
70. 尚文土器	深鉢形土器	口縫	S-3	I層	中期末葉～後期初頭		

表5 遺構外出土遺物観察表(2)

No.	種別	器形	部位	グリット	層位	年代	型式・石材	備考
71	縄文土器	深鉢形土器	口縁	S-4	I層	後期初頭		
72	縄文土器	深鉢形土器	胴	S-4	I層	中期末葉～後期初頭		
73	縄文土器	深鉢形土器	胴	S-6	I層	中期末葉～後期初頭		
74	縄文土器	深鉢形土器	胴	S-6	I層	中期末葉～後期初頭		
75	縄文土器	深鉢形土器	胴	S-7	I層	中期末葉～後期初頭		
76	縄文土器	深鉢形土器	口縁	T-3	I層	中期末葉～後期初頭		
77	縄文土器	深鉢形土器	胴	T-3	I層	中期末葉～後期初頭		
78	縄文土器	深鉢形土器	胴	T-3	I層	中期末葉～後期初頭		
79	縄文土器	深鉢形土器	胴	T-5	I層	中期末葉～後期初頭		
80	縄文土器	深鉢形土器	口縁	T-7	I層	中期末葉～後期初頭		
81	縄文土器	深鉢形土器	胴	T-7	I層	中期末葉～後期初頭		
82	縄文土器	深鉢形土器	胴	T-7	I層	中期末葉～後期初頭		
83	縄文土器	深鉢形土器	胴	T-7	I層	中期末葉～後期初頭		
84	縄文土器	深鉢形土器	胴	D-2	III層	中期末葉～後期初頭		
85	縄文土器	深鉢形土器	胴	G-2	III層	中期末葉～後期初頭		
86	縄文土器	深鉢形土器	胴	K-2	III層	中期末葉～後期初頭		
87	縄文土器	深鉢形土器	口縁	D-5	Ⅳ層	後期初頭		
88	縄文土器	深鉢形土器	口縁	E-4	Ⅲ層	中期末葉～後期初頭	246号に伴う可能性あり	
89	縄文土器	深鉢形土器	口縁～胴	E-4	Ⅲ層	中期末葉～後期初頭	88と同一個体(245号に伴う可能性あり)	
90	縄文土器	深鉢形土器	胴	E-4	Ⅲ層	後期初頭?		
91	縄文土器	深鉢形土器	胴	E-4	Ⅲ層	中期末葉～後期初頭	88と同じ個体(245号に伴う可能性あり)	
92	縄文土器	深鉢形土器	胴	E-4	Ⅲ層	中期末葉～後期初頭	88と同じ個体(245号に伴う可能性あり)	
93	縄文土器	深鉢形土器	胴	E-4	Ⅲ層	後期初頭	88と同じ個体(245号に伴う可能性あり)	
94	縄文土器	深鉢形土器	胴	E-3	IV層	中期末葉～後期初頭		
95	縄文土器	深鉢形土器	胴	I-6	Ⅴ層	中期末葉～後期初頭		
96	縄文土器	深鉢形土器	胴	Q-6	Ⅴ層	中期末葉～後期初頭		
97	縄文土器	深鉢形土器	胴	R-8	Ⅴ層	中期末葉～後期初頭		
98	縄文土器	深鉢形土器	胴	T-6	Ⅴ層	中期末葉～後期初頭		
99	縄文土器	深鉢形土器	胴	T-7	Ⅴ層	中期末葉～後期初頭		
100	縄文土器	深鉢形土器	I縫～胴	B-6	風呂水一括	後期初頭		
101	縄文土器	深鉢形土器	胴	A-4	Ⅳ層	中期末葉～後期初頭		
102	縄文土器	深鉢形土器	I縫～胴	D-2	サブトレ投石	中期末葉～後期初頭		
103	縄文土器	深鉢形土器	胴	D-2	サブトレ投石	中期末葉～後期初頭		
104	縄文土器	深鉢形土器	胴	D-2	サブトレ投石	後期初頭		
105	縄文土器	深鉢形土器	胴	D-2	サブトレ投石	中期末葉～後期初頭		
106	縄文土器	深鉢形土器	I縫～胴	F-4	試掘5トロ埋土	中期末葉～後期初頭		
107	縄文土器	深鉢形土器	I縫	--	Ⅳ層	中期末葉～後期初頭		
108	縄文土器	深鉢形土器	胴	--	Ⅳ層	中期末葉～後期初頭		
109	縄文土器	深鉢形土器	胴	--	Ⅳ層	中期末葉～後期初頭		
110	縄文土器	深鉢形土器	胴	--	Ⅳ層	中期末葉～後期初頭		
111	縄文土器	深鉢形土器	胴	--	Ⅳ層	中期末葉～後期初頭		
112	縄文土器	深鉢形土器	胴	--	Ⅳ層	中期末葉～後期初頭		
113	縄文土器	深鉢形土器	口縁	--	Ⅳ層	中期末葉～後期初頭		
114	縄文土器	深鉢形土器	胴	--	Ⅳ層	中期末葉～後期初頭		
115	石器	磨石	--	C-4	I層	--	花崗岩	
116	石器	磨製石斧	--	C-6	I層	--	花崗岩	
117	石器	磨石	--	C-6	I層	--	安山岩	赤面あり
118	石器	不明	--	C-6	I層	--	安山岩	赤面あり
119	石器	磨石	--	D-2	I層	--	花崗岩	
120	石器	磨石	--	D-2	I層	--	ひんせき	赤面あり
121	石器	磨石	--	E-4	I層	--	安山岩	
122	石器	磨石	--	H-2	I層	--	安山岩	
123	石器	磨石	--	S-3	I層	--	安山岩	
124	石器	磨石	--	S-3	I層	--	安山岩	
125	石器	石斧	--	R-4	Ⅳ層	--	花崗岩	
126	石器	石斧	--	A-4	--	--	花崗岩	
127	石器	石斧	--	T-4	表様	--	安山岩	
128	石器	石斧	--	S-4	表様	--	安山岩	

なお縄文前期の円筒下唇c式土器以前の土器や、後期後半～晩期の土器等は出土していない。このほかには、縄文時代の石鏡、磨製石斧、砾石器等の石器も出土している。

また、屏風山砂丘上の遺跡によく見られる平安時代の土師器・須恵器・鐵斧等は遺構外からは出土せず、遺構覆土より土師器が1点出土したのみであった。(佐野)

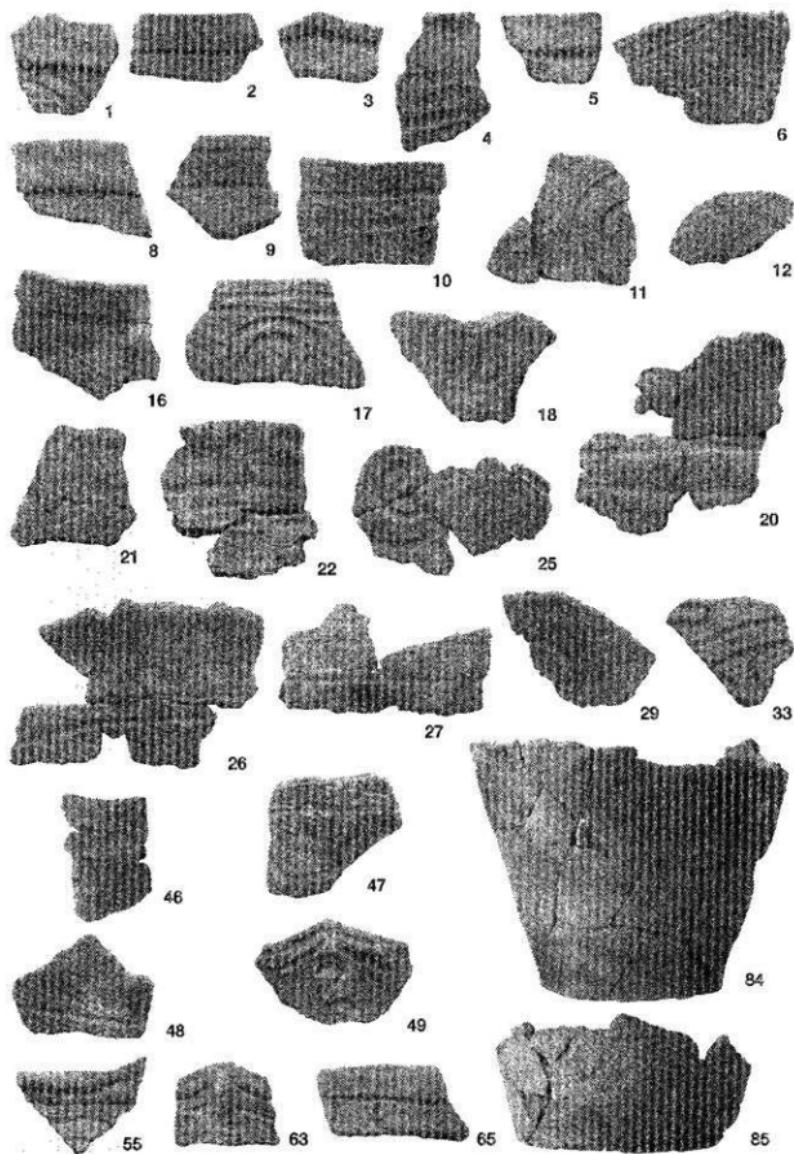


写真7 造構外出土遺物①

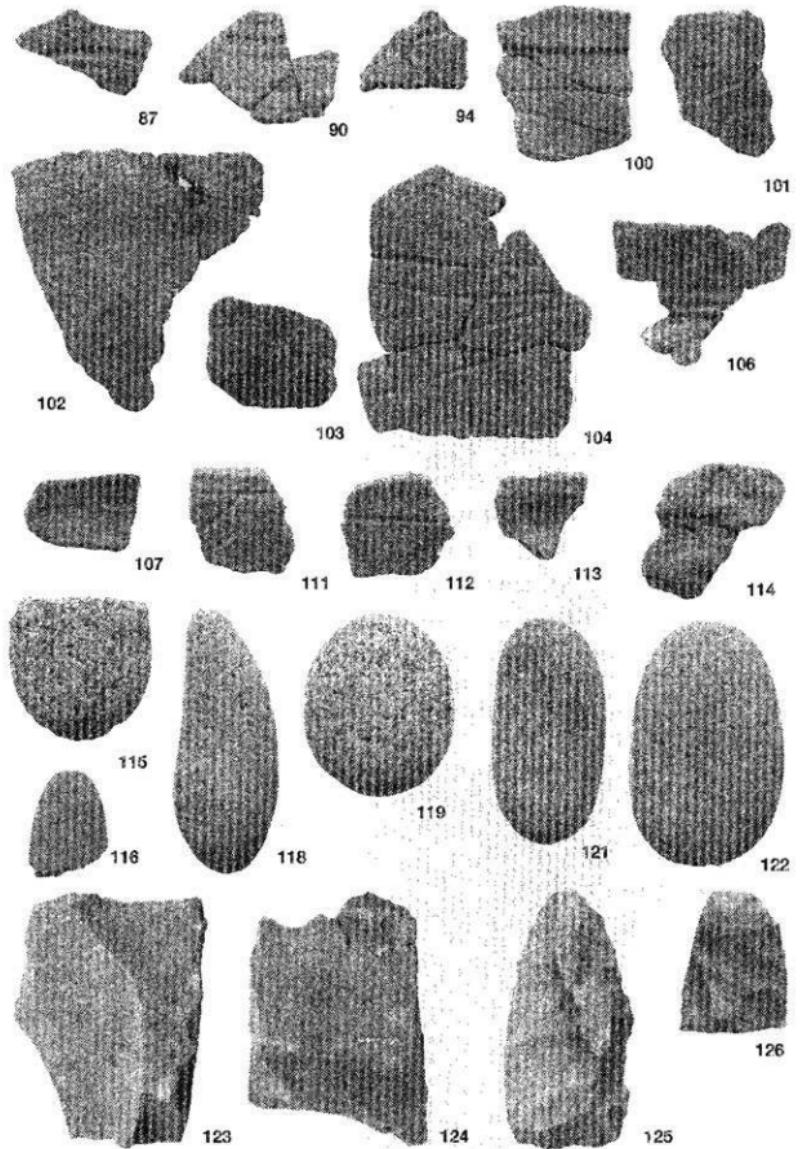


写真8 遺構外出土遺物②

## 第4章 繩文時代の遺構

### 4-1 概要

平成17~18(2005~06)年度の発掘調査では、579基を遺構とした。整理調査の結果、根跡等と判断されたものもあり、最終的に486基を遺構として取り扱うが、このうち443基が縄文時代の遺構である。堅穴住居跡・配石遺構・フ拉斯コ状土坑のほか、墓坑と考えられる土坑も確認されたが、その多くは土坑・ピットであった。土坑・ピットは組み合わせが想定出来るものもありそれらについては、一括して報告している。年代的には中期末~後期初頭、後期初頭~後期初頭~前葉の計3段階の遺構が確認された。(佐野)

### 4-2 住居跡

調査区西部~中央部で、3軒の堅穴住居跡を確認した。住居跡の様部分は部分的な確認であり、遺構の平面形状・規模はいずれも推定である。確認された遺構の掘り込みも10cm程度と薄い。これは後世に住居跡周囲に新たな遺構が配置された際に、住居跡の上部構造が削平されたこと、また後世の植林等によって調査区が全体的に削平を受けていることに起因すると考えられた。これらの住居跡に伴う遺物は少ないが、縄文中期末~後期初頭、後期初頭の2段階の遺構があると推定している。(佐野)

表6 245号に伴う遺構リスト

番号	グリッド	種別	時代	備考
105号	I4~F4	堅穴	中期末~後期初	245号に伴う堅穴
132号	F4	ピット	中期末~後期初	
134号	F4	土坑	中期末~後期初	
141号	I4	柱穴	中期末~後期初	245号に伴う柱穴
151号	F3	柱穴	中期末~後期初	245号に伴う柱穴
153号	I4	柱穴	中期末~後期初	245号に伴う柱穴
172号	K4	柱穴	中期末~後期初	245号に伴う柱穴
175号	E3	柱穴	中期末~後期初	245号に伴う柱穴
184号	E4	柱穴	中期末~後期初	245号に伴う柱穴
187号	E4	柱穴	中期末~後期初	245号に伴う柱穴
195号	F4	柱穴	中期末~後期初	245号に伴う柱穴
196号	F4	柱穴	中期末~後期初	245号に伴う柱穴
220号	F4	柱穴	中期末~後期初	245号に伴う柱穴
231号	F5	ピット	中期末~後期初	
232号	F5	ピット	中期末~後期初	
233号	F5	ピット	中期末~後期初	
234号	F4	ピット	中期末~後期初	
238号	F4	柱穴	中期末~後期初	245号に伴う柱穴
239号	F4	ピット	中期末~後期初	
240号	F5	ピット	中期末~後期初	
241号	F4	ピット	中期末~後期初	
245号	B3~F4	住居跡	中期末~後期初	

#### 4-2-1 245号

E4~F5グリッドに位置する。壁部の立ち上がりは西部でのみ確認され、遺構の正確な規模・形状は不明だが、長軸6.5m×短軸4.5mほどで、西北西~東南東方向に長軸を持ち、梢円形の平面形状を呈すると推定された。105号はこの住居跡に伴う炉跡で、固くしまった焼土が確認されている。このほかにも住居跡内部や

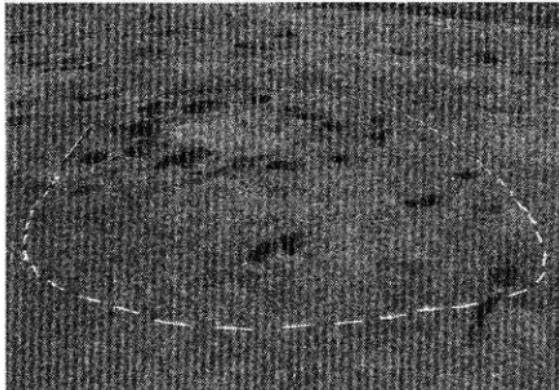


写真9 245号(南東から)

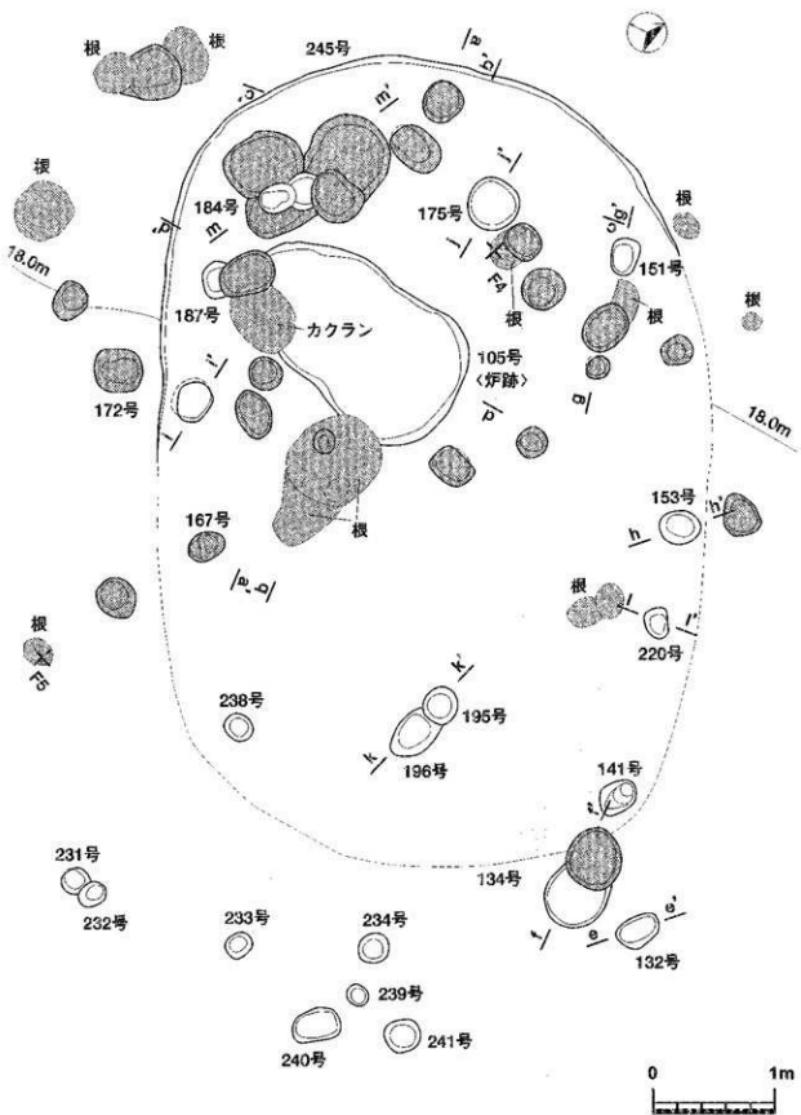


図19 245号

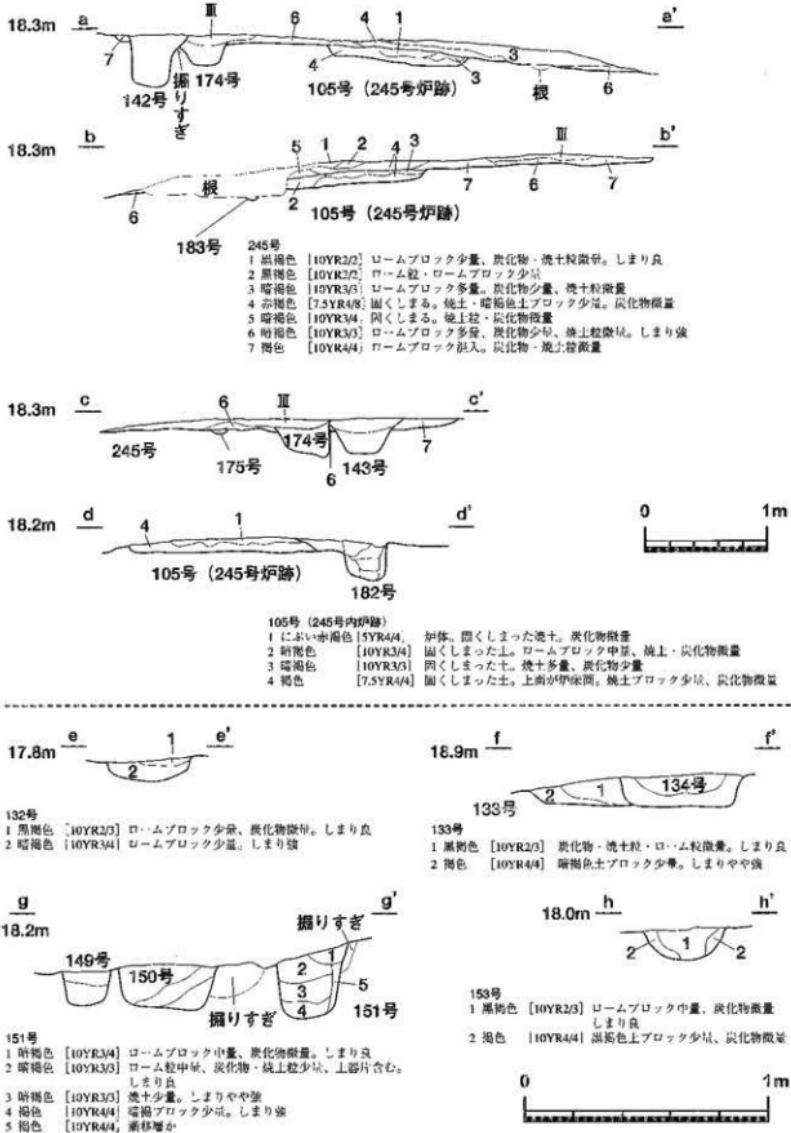


図20 245・105・132～134・151・153号 土壌断面図

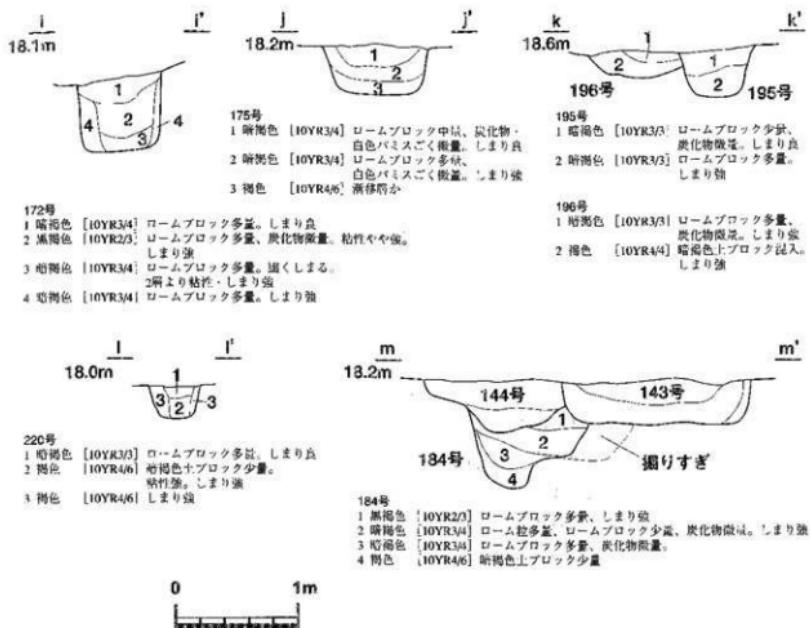


図21 172・175・184・195・196・220号 土層断面図

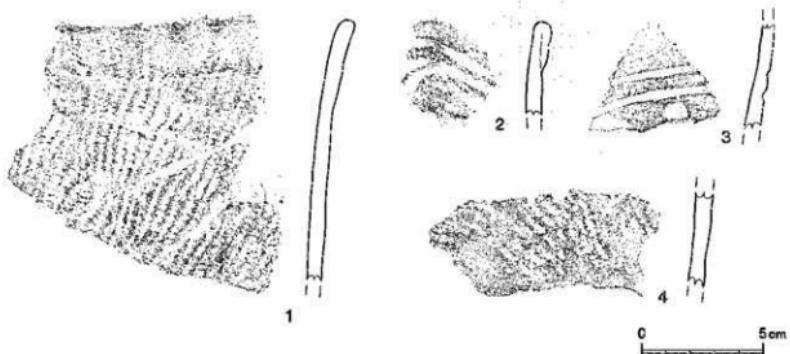


図22 245号 出土遺物

表7 245号 出土遺物観察表

No.	種別	器形	部位	層位	年代	型式	備考
1	縄文土器	深鉢形土器	口縁～胴	1層	中期末葉～後期初頭	—	
2	縄文土器	深鉢形土器	口縁	1層	中期末葉～後期初頭	—	
3	縄文土器	深鉢形土器	胴	1層	中期末葉～後期初頭	—	
4	縄文土器	深鉢形土器	胴	3層	中期末葉～後期初頭	—	

周間に、これに伴う柱穴跡などの付属施設が確認され、後期初頭を下限とする遺物が出土している。なお、245号の南東に位置するピット群（231～234・239～241号）も、この住居に伴う施設と考えられた。

覆土は7層に分層され、1・3層より縄文中期末～後期初頭の深鉢形土器片等が出土しているが、床面直上からの出土遺物はない。また上部に位置する縄文初頭の掘立柱建物跡（111～221号）に掘り込まれている状況も確認された。覆土が10cmと薄いが、これは上部に位置する掘立柱建物跡構築時に削平・地均しされたためと考えられ、特に覆土上部は掘立柱建物跡構築のために踏み固められたような様相も見られた。そのため覆土上部から得た遺物は後世の地均しに伴うもので、本米は245号に伴う遺物ではない可能性も考えられた。掘立柱建物跡との先後関係や出土遺物から、縄文中期末葉～後期初頭段階の住居跡と判断された。

(佐野)

#### 4-2-2 336号

K4～L5グリッドに位置し、直径4.3mほどの規模を持つ不規則円形の平面形状を呈すると推定される堅穴住居跡である。内部や周囲に位置する小規模なピット群は、柱穴跡等、いずれもこの住居跡に伴う施設と判断している。遺構の掘り込みは10cm程度と薄く、住居の壁部の立ち上がりも北側でのみ確認されたが、これは江戸時代以降に当地で実施された植林によって、遺構の上部が搅乱・削平を受けた結果と考えられた。

遺物は出土しておらず、他の遺構との重複関係もないため、年代については詳細不明だが、他の遺構との覆土の比較から、縄文中期末葉～後期初頭段階の堅穴住居跡と推定している。

(佐野)

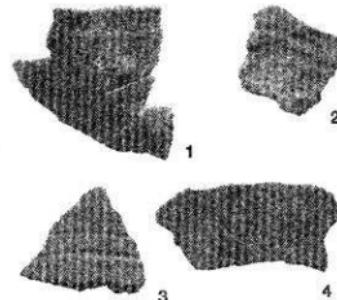


写真10 245号 出土遺物

表8 336号に伴う遺構リスト

番号	グリッド	種別	時代	備考
336号	K5	住居跡	中期末～後期初頭	336号に伴う柱穴か？
337号	K5	ピット	中期末～後期初頭	
338号	K5	ピット	中期末～後期初頭	
339号	K5	ピット	中期末～後期初頭	
340号	K5	ピット	中期末～後期初頭	
342号	K5	ピット	中期末～後期初頭	
343号	J5-K5	ピット	中期末～後期初頭	
344号	K5	ピット	中期末～後期初頭	
345号	K5	ピット	中期末～後期初頭	
346号	K5	ピット	中期末～後期初頭	
347号	K4-K5	ピット	中期末～後期初頭	
348号	K4-K5	ピット	中期末～後期初頭	
349号	K5	ピット	中期末～後期初頭	336号に伴う柱穴か？
350号	K4	ピット	中期末～後期初頭	
351号	K4	ピット	中期末～後期初頭	
355号	K4	ピット	中期末～後期初頭	
356号	K4	ピット	中期末～後期初頭	
357号	K4	ピット	中期末～後期初頭	
358号	K4	ピット	中期末～後期初頭	
359号	K4	ピット	中期末～後期初頭	
361号	K4	ピット	中期末～後期初頭	
362号	K4	ピット	中期末～後期初頭	
363号	K4	ピット	中期末～後期初頭	
364号	L4	ピット	中期末～後期初頭	
365号	L3	ピット	中期末～後期初頭	
366号	L5	ピット	中期末～後期初頭	
367号	L5	ピット	中期末～後期初頭	
368号	I3	ピット	中期末～後期初頭	
369号	K5-L5	ピット	中期末～後期初頭	
346号	S4	ピット	中期末～後期初頭	
347号	S2	ピット	中期末～後期初頭	336号に伴う柱穴か？
348号	K3	ピット	中期末～後期初頭	
349号	K5	ピット	中期末～後期初頭	
351号	G5	ピット	中期末～後期初頭	
353号	K5	ピット	中期末～後期初頭	
354号	K5	ピット	中期末～後期初頭	
355号	K5	ピット	中期末～後期初頭	
356号	J5	ピット	中期末～後期初頭	
357号	J5	ピット	中期末～後期初頭	
358号	J5-K5	ピット	中期末～後期初頭	

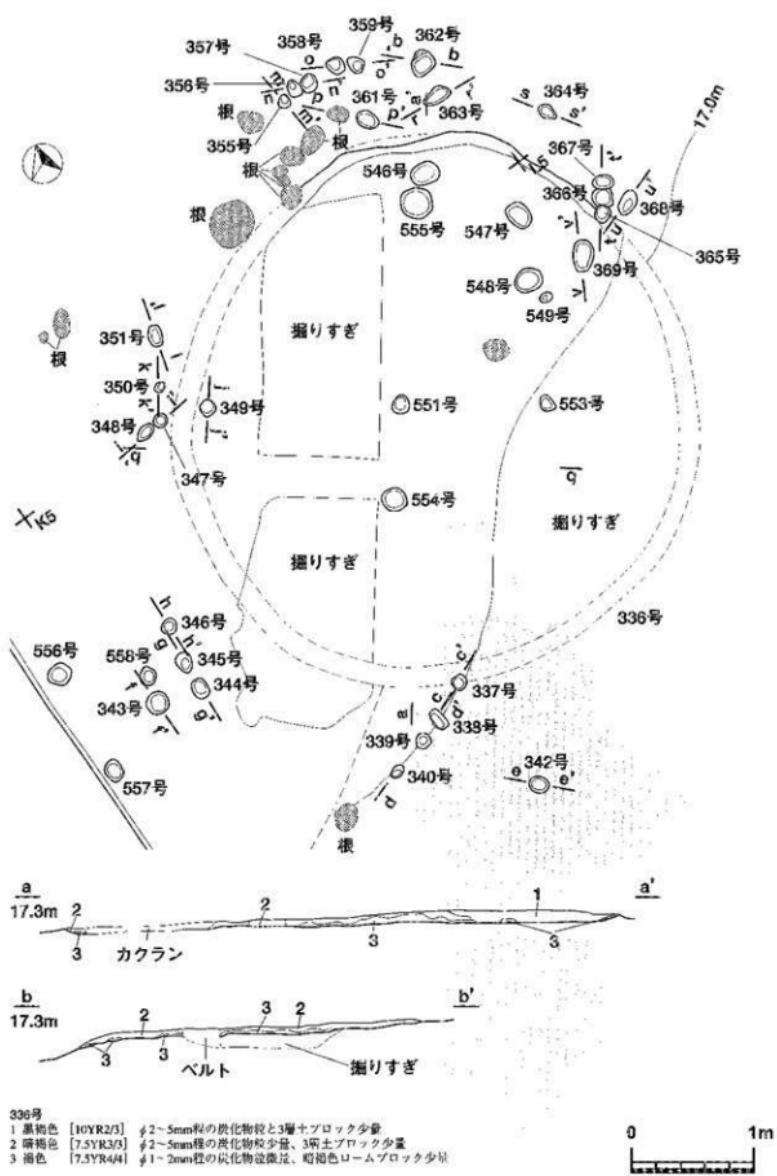


図23 336号

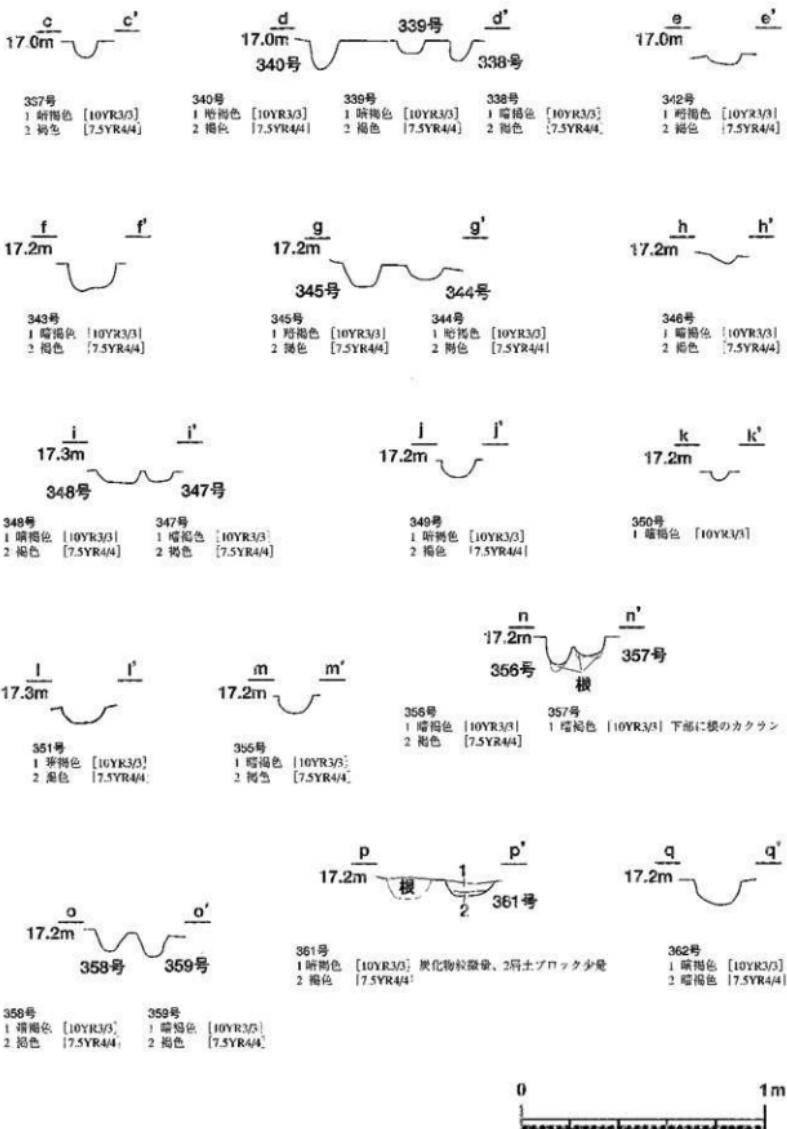


図24 337~351・355~359・361・362号 断面図



図25 363～369号 断面図

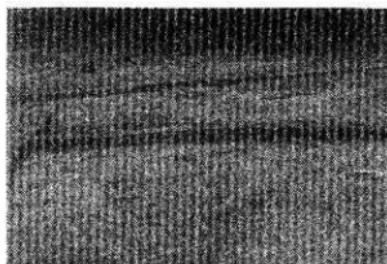


写真11 336号 土壠断面（東から）

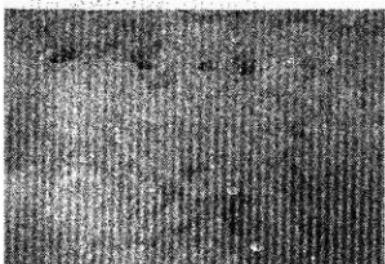


写真12 337～340・342号（南東から）

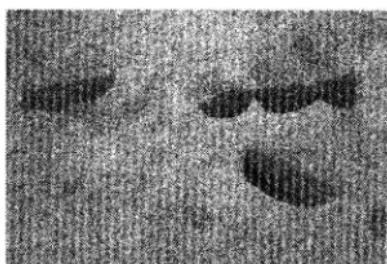


写真13 365～369号（東から）



写真14 365～369号（南東から）

### 4-2-3 301号

J5～K6グリッドに位置する、東西方向に5.3mほどの規模を持つ遺構である。南半は調査前の上砂採取によりすでに消滅しているため正確な形状は不明だが、残存する遺構の規模と、比較的平坦に推移する底面から判断して、堅穴住居跡と推測している。内部に位置するピット（302～304号）は、301号の底面（床面）を検出した段階で確認されたため、これに付属する柱穴跡ではないかと考えられた。覆土や床面直上等から遺物は出土していないため正確な帰属年代は掴めていないが、前述した縄文中期末葉～後期初頭段階の住居跡（245号）を掘り込む後期初頭の掘立柱建物跡と覆土が類似することから、縄文後期初頭段階の遺構と推定している。（佐野）

表9 301号に伴う遺構リスト

番号	グリッド	種別	時代	備考
301号	J5～K6	住居跡	後期初頭	301号に伴う柱穴か？
302号	K6	ピット	後期初頭	302号に伴う柱穴か？
303号	K6	ピット	後期初頭	302号に伴う柱穴か？
304号	K6	ピット	後期初頭	303号に伴う柱穴か？

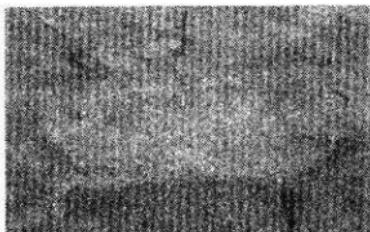


写真15 301号 (南から)



写真16 302号 (南西から)

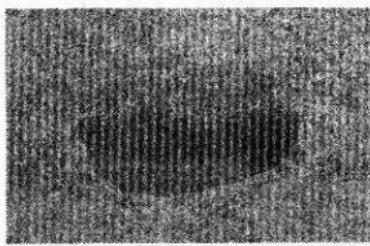


写真17 303号 (南から)

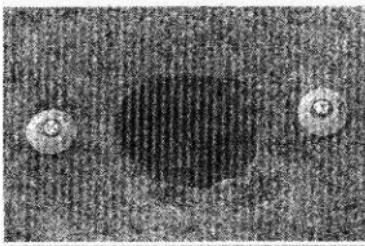


写真18 304号 (東から)

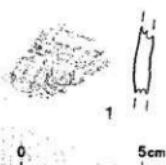


図26 301号 出土遺物



写真19 301号 出土遺物

表10 301号 出土遺物観察表

No	種別	器形	部位	層位
1	縄文土器	深鉢形土器	刷	1層

年代	型式	備考
中期末葉～後期初頭	—	—

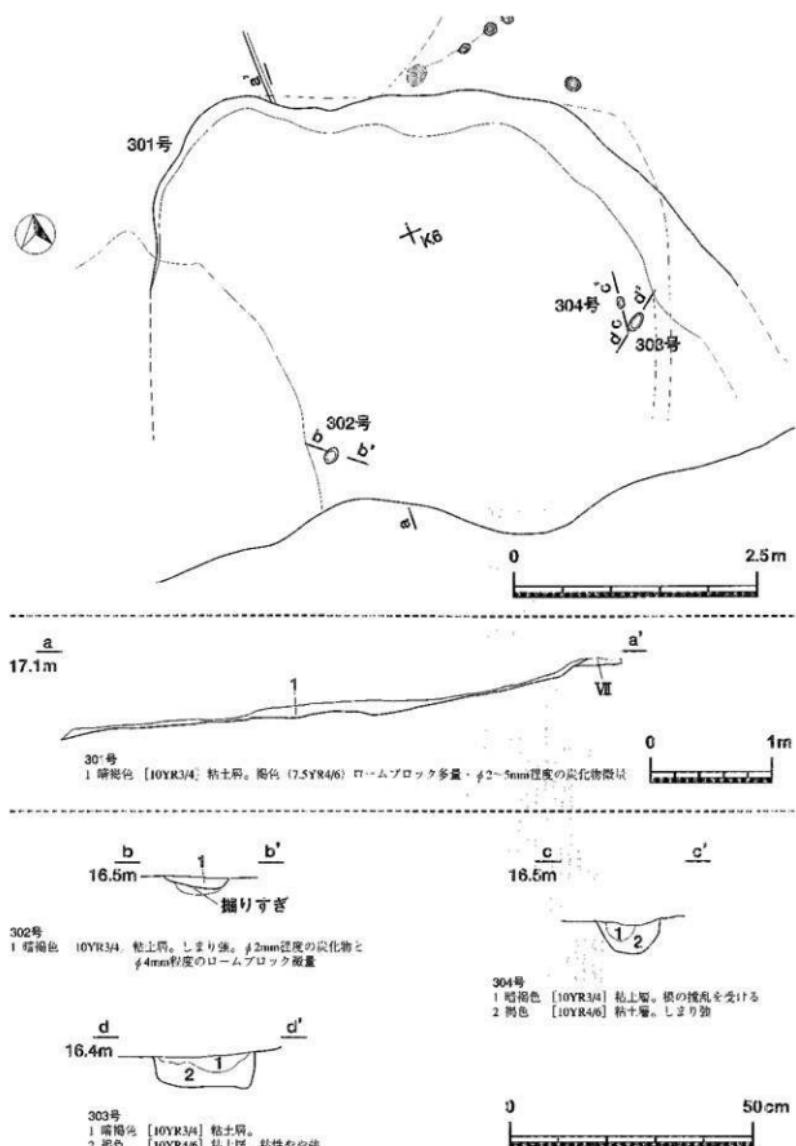


図27 301号

## 4-3 掘立柱建物跡

多くの土坑・ピットを確認した今回の調査では、遺構規模の類似性・遺構間の位置関係・年代の同一性等から、何組かの遺構の組み合わせが考えられた。そのうち組み合わせによる平面プランが方形に近くなるもので、かつL型断面観察の結果、柱穴跡であると判断されたピット群を掘立柱建物跡として扱った。E2～F4グリッドに位置する、ほぼ同規模ではほぼ同一の軸線の傾きを持ち、しかも隣接する2組のピット群をこれにあてた。ただ今回の調査地点付近は後世の植林等による削平等を受けていたため、これらは上部構造を失った竪穴住居跡である可能性もあることも申し添えておきたい。両者とも縄文後期初頭段階の遺構と考えている。

(佐野)

### 4-3-1

#### 111～243号

E3～F4グリッドに位置する22基の遺構群である。遺構間の組み合わせを検討した結果、ほぼ南北方向に軸線をもち、一辺4m程度の方形の平面プランを呈する掘立柱建物跡と推定された。111号などより、後期初頭を下限とする土器細片等が出土していることや、縄文中期末葉～後期初頭段階の竪穴住居跡(245号)を掘り込んでいることから、年代的には縄文後期初頭段階の遺構群と判断された。

(佐野)

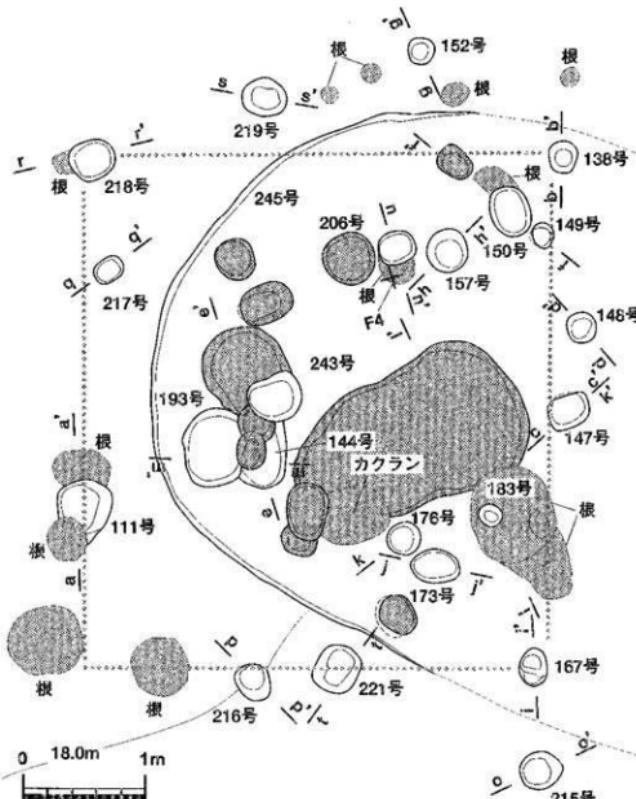


図28 111・138・144・147～150・152・157・167・173・176・183・193・  
206・215・216～219・221・243号

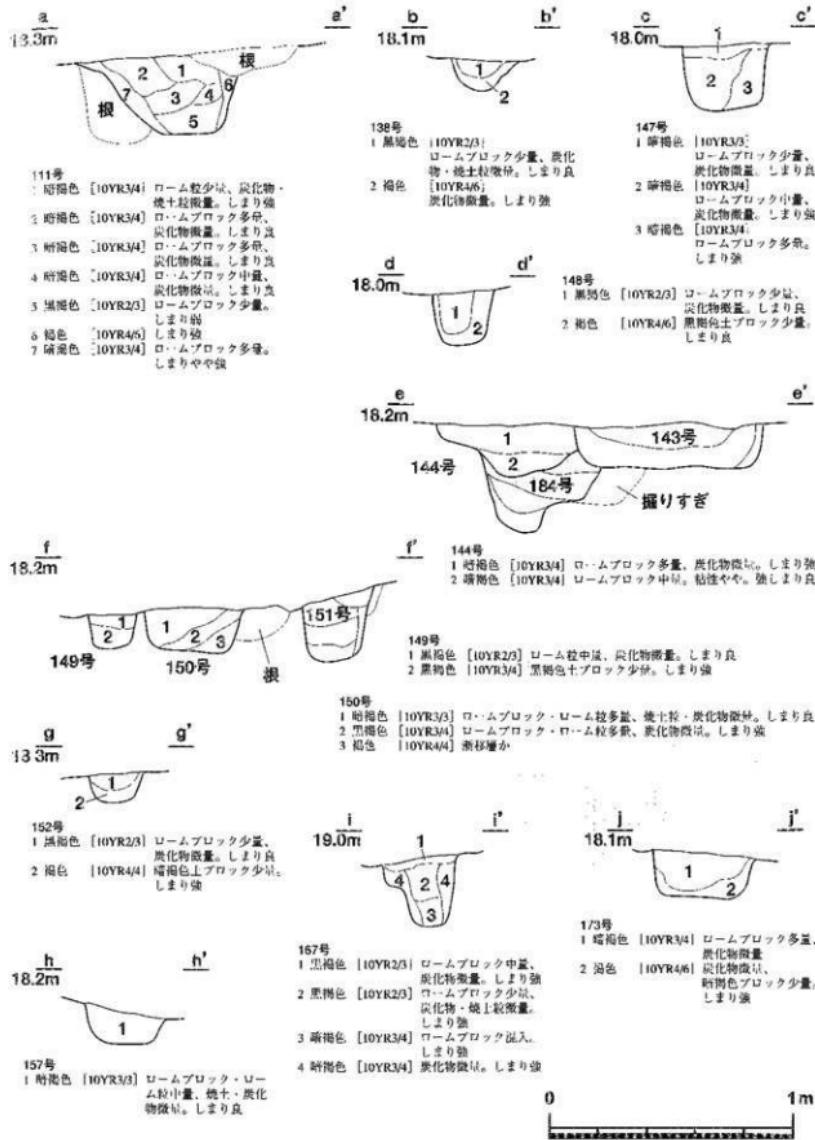


図29 111・138・144・147~150・152・157・167・173号 土層断面図

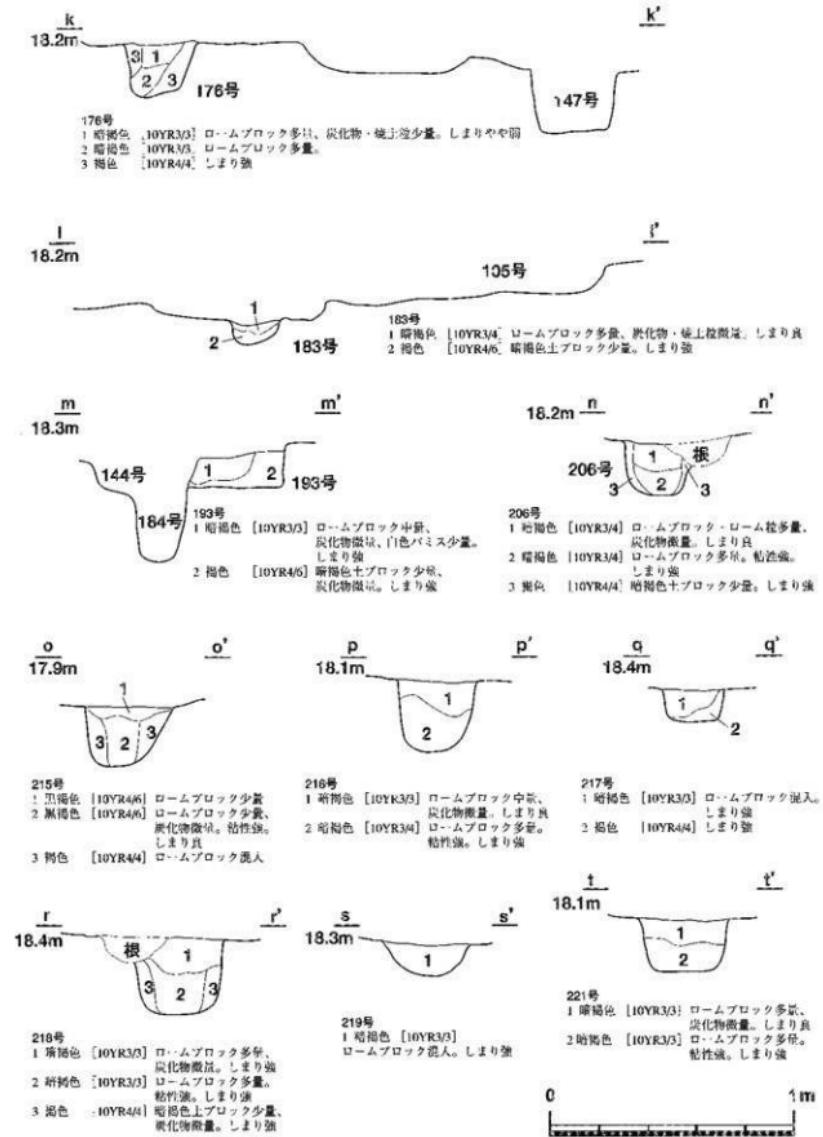


図30 176・183・193・206・215～219・222号 土層断面図

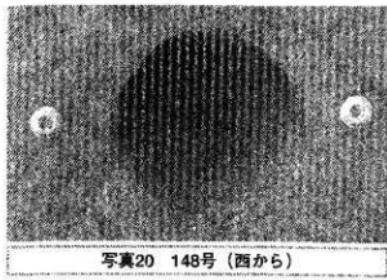


写真20 148号（西から）

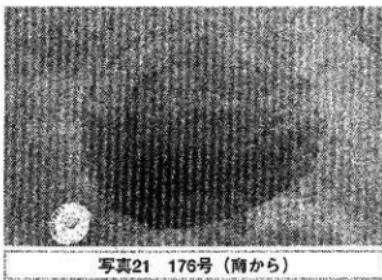


写真21 176号（南から）

#### 4-3-2 89~146号

E2~F3グリッドに位置する13基の遺構群である。遺構間の組み合わせを検討した結果、ほぼ南北方向に軸線をもち、一辺4m程度の方形の平面プランを呈する掘立柱建物跡と推定された。遺物は90・95・117・130・137・146号より後期初頭を下限とする上器片等が出土している。

前述した掘立柱建物跡（111~243号）の北側に隣接し、ほぼ同一軸線上に並んでいることから、同時期に2つの掘立柱建物跡が併設されていた可能性が窺えた。このことから縄文後期初頭段階の遺構と考えられた。  
(佐野)

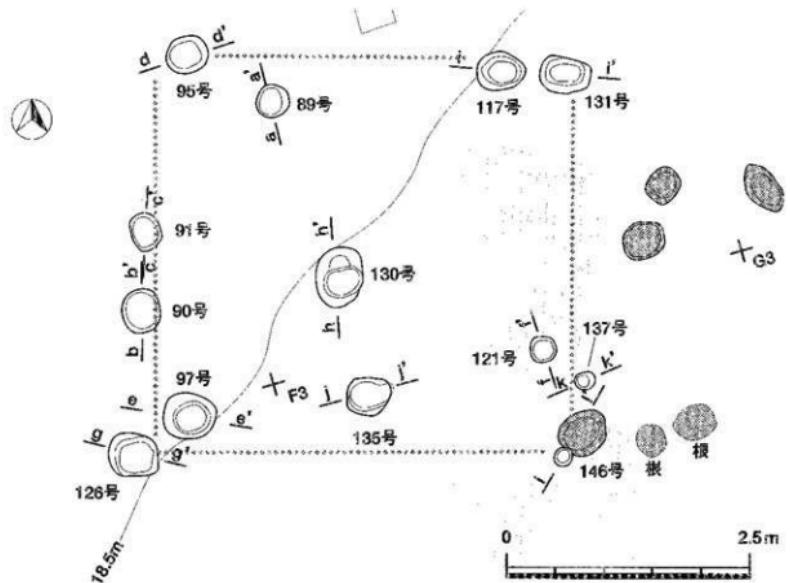


図31 89~91・95・97・117・121・126・130・131・135・137・146号

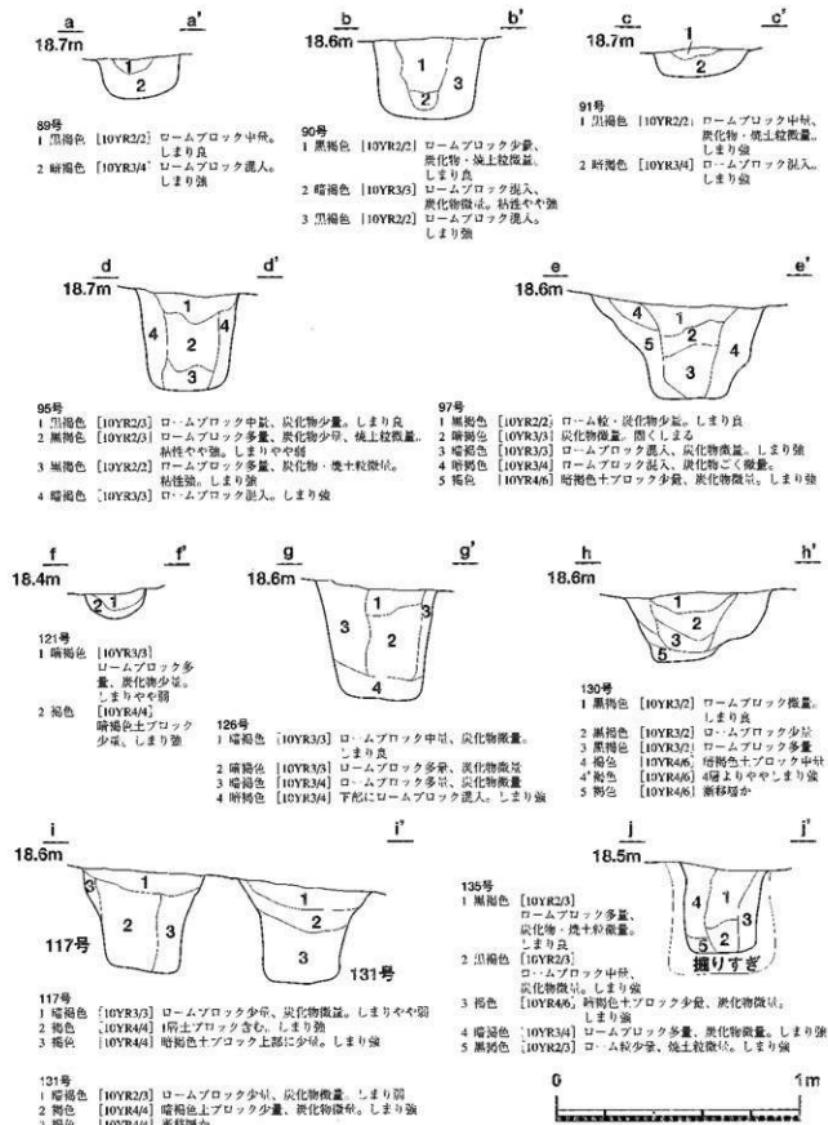


図32 89~91・95・97・117・121・126・130・131・135号 土層断面図



図33 137・146号 土層断面図

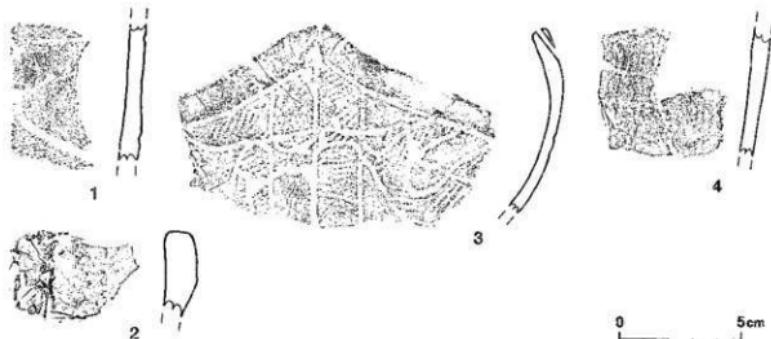


図34 117・130・146号 出土遺物

表11 117・130・146号 出土遺物観察表

No.	種別	器形	部位	遺構	解位	年代	型式	備考
1	縄文土器	深鉢形土器	胴	117号	1層	中期末葉～後期初頭	—	
2	縄文土器	深鉢形土器	口縁	117号	1層	後期初頭	—	
3	縄文土器	深鉢形土器	口縁～胴	130号	2層	中期後葉	—	
4	縄文土器	深鉢形土器	胴	146号	1層	中期末葉～後期初頭	—	



写真22 117・130・146号 出土遺物

## 4.4 土坑・ピット

多くの土坑・ピットを確認しているが、先に掘立柱建物跡として扱った造構群以外に明確な造構群の組み合わせを想定出来るものは少なく、それぞれの造構の機能・性格も明確にできなかった。これらることは調査区が後世の植林等によって造構上部が削平を受けていることが大きな要因といえる。なお、ある程度の組み合わせが想定される造構群については、搅乱により上部構造を失った竪穴住居跡や何らかの構造物の可能性があるのではないかと推測している。また平成18（2006）年度調査地点である調査区東部では、地山面まで樹木による根の搅乱が著しく、造構として扱ったものの中にも根が蜘蛛の巣のように入り込んでいたものもあり、根跡では？と思われるものもあった。しかし判断が困難なものもあり、明らかに根跡と判断されたもの以外は造構としてとり扱ったことを申し添えておく。年代的には縄文中期末葉～後期初頭、後期初頭、後期初頭～前葉の3段階の造構がある。（佐野）

### 4-4-1 1~8・10・47・71・82・84・223号

調査区西端部のA3～B3グリッドを中心に分布する14基の造構群である。1・3・7・10・47号よ

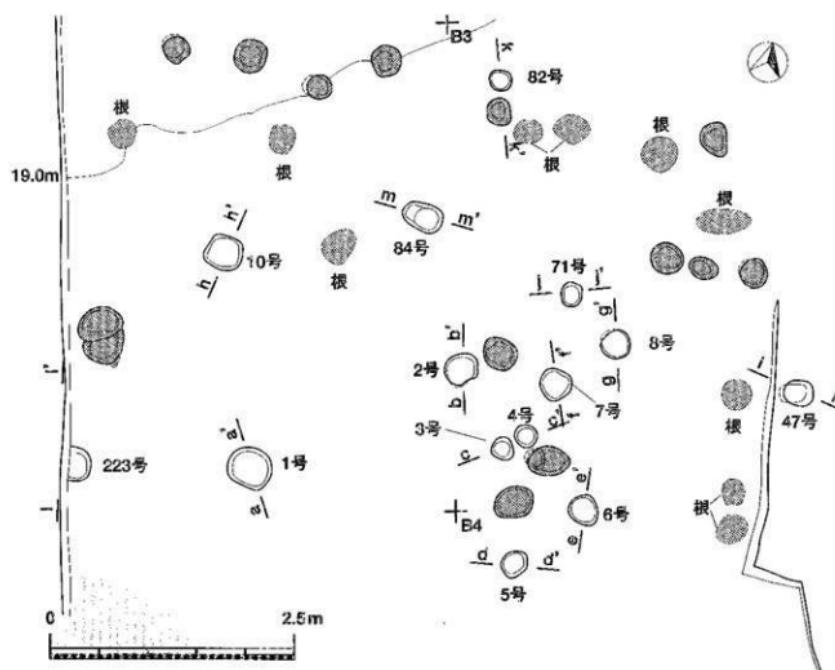


図35 1~8・10・47・71・82・84・223号

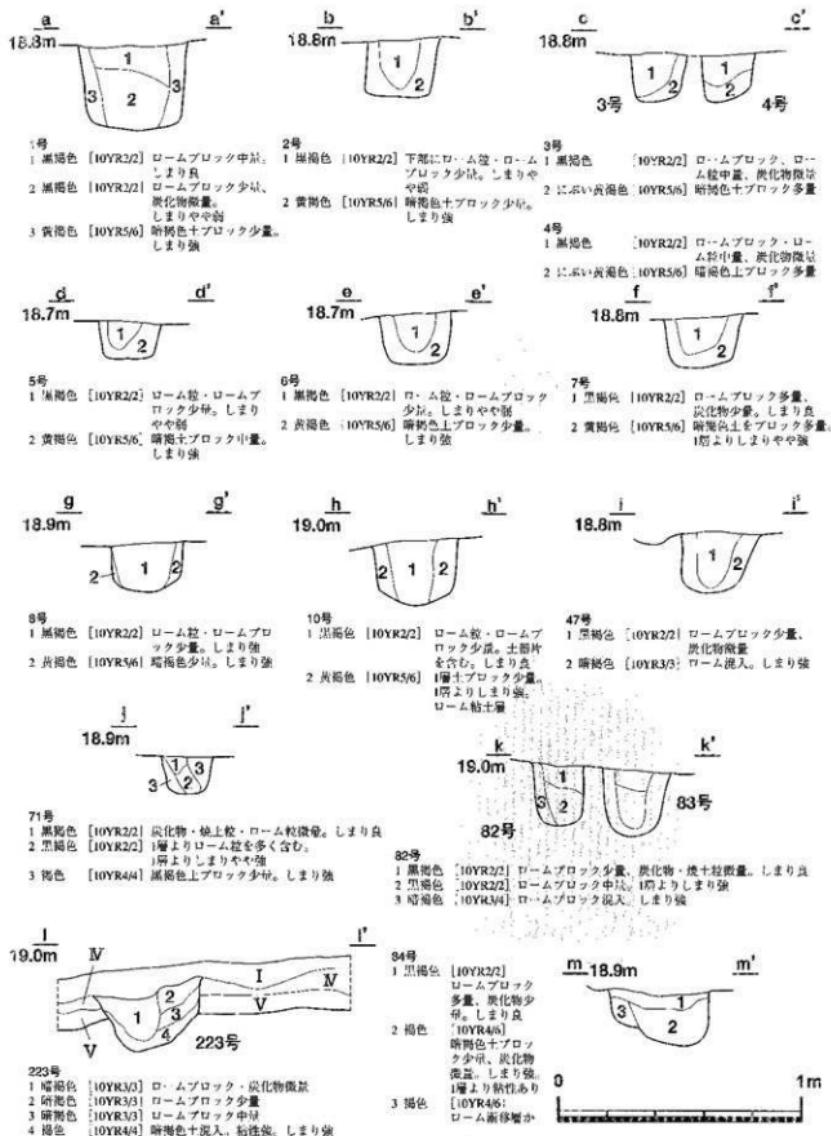


図36 1~8・10・47・71・82・84・223号 土層断面図

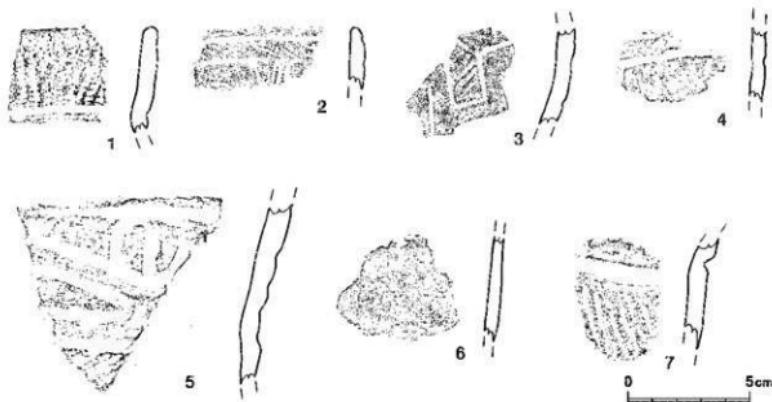


図37 1・10・47号 遺構出土遺物

表12 1・10・47号 出土遺物観察表

No.	種別	器形	部位	造構	層位	年代	型式	備考
1	縄文土器	深鉢形土器	口縁	1号	最上層	中期末葉～後期初頭	—	
2	縄文土器	深鉢形土器	口縫	1号	最上層	後期初頭	—	
3	縄文土器	深鉢形土器	刷	1号	最上層	後期初頭	—	
4	縄文土器	深鉢形土器	刷	10号	覆土	中期末葉～後期初頭	—	
5	縄文土器	深鉢形土器	刷	10号	1号	中期末葉～後期初頭	—	4と同一個体
6	縄文土器	深鉢形土器	刷	10号	覆土	中期末葉～後期初頭	—	
7	縄文土器	深鉢形土器	刷	47号	—	中期末葉～後期初頭	—	

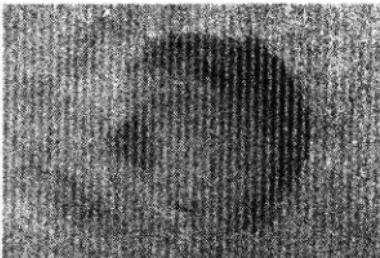


写真23 10号（南から）

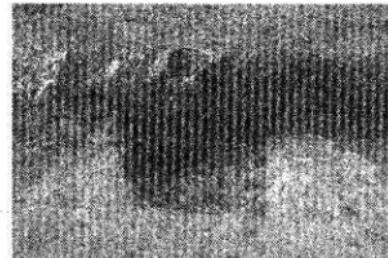


写真24 223号（東から）

り後期初頭を下限とする土器片が出士しているが、黒褐色でしまりの良い覆土の特徴から、縄文後期初頭～前葉の造構群と考えている。なおこれらの造構群は西側に位置する後期初頭の埋設土器造構（103号）に関連するものではなく、それぞれの造構の機能や性格は不明である。

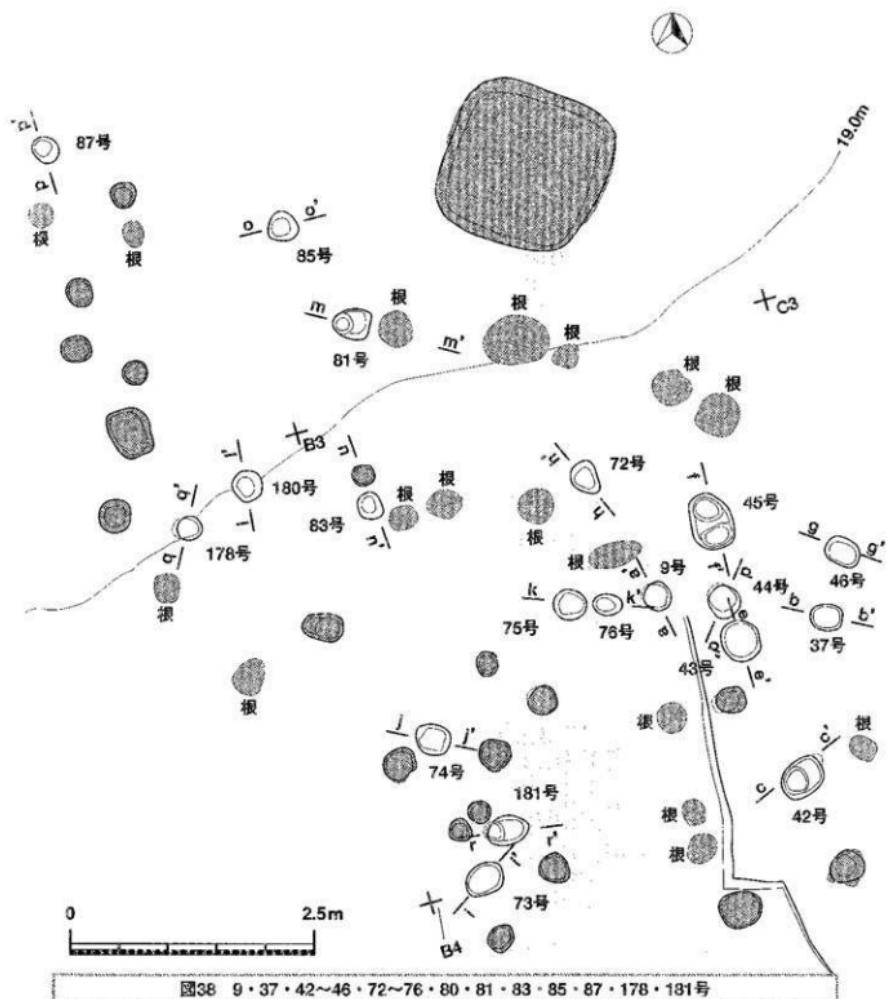
（佐野）

#### 4-4-2 9・37・42～46・72～76・80・81・83・85・87・178・181号

調査区西部のA2～C3グリッド付近に分布する造構群である。遺物は37・81・85号の上部より後期

初頭を下限とする土器細片が少量出土している。覆土の色調等は一定ではないが、これらの遺構はすべてⅢ層を剥ぎとる途中の段階で確認しているため、近隣に分布する同じ段階の遺構群と推測された。柱穴のような土層堆積状況を示している遺構もあるため、何らかの植物跡に伴うものも混在している可能性も考えられるが、明確な組み合わせ等は明らかにすることはできず、これらの遺構の機能・性格は不明である。年代的には縄文後期初頭段階の遺構群と考えられた。

(佐野)



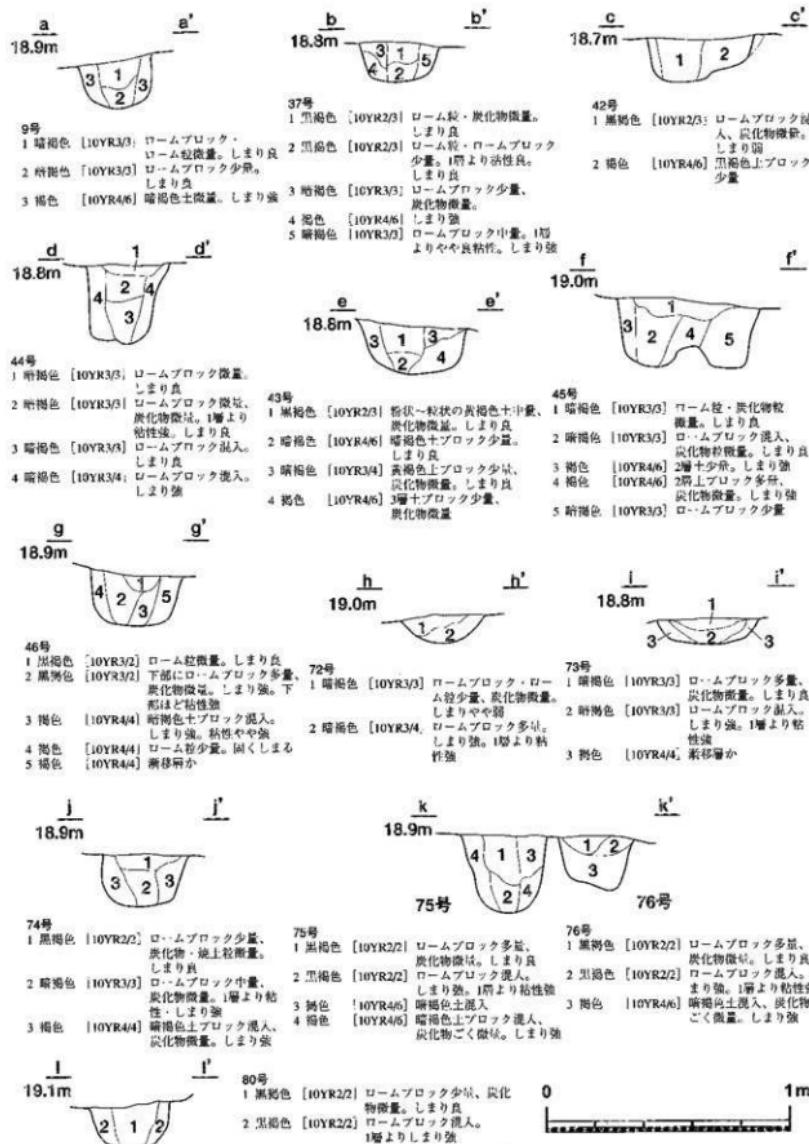
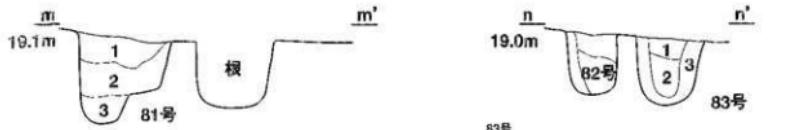


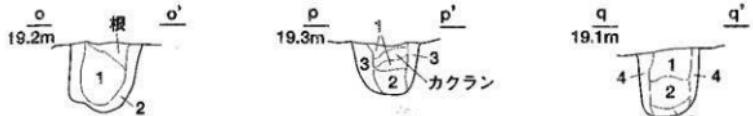
図39 9・37・42~46・72~76・80号 土壌断面図



83号 1 噴褐色 [10YR3/4] 塩化物・ローム較微量。しまり良

2 黑褐色 [10YR3/4] ロームブロック中量。しまり強

3 深色 [10YR4/6] 噴褐色+ブロック混入。しまり強



178号 1 黑褐色 [10YR2/4] ロームブロック中量、

塩化物・硬土粒微量。

しまり良

2 黑褐色 [10YR2/4] 1層より粘性強

3 深色 [10YR4/6] 噴褐色上+ブロック少量。

粘性・しまり強

4 深色 [10YR4/6] 3層よりやや粘性弱

しまり強

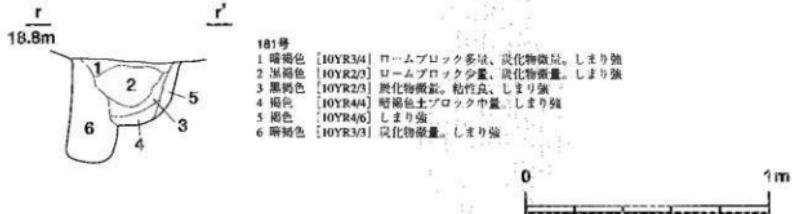
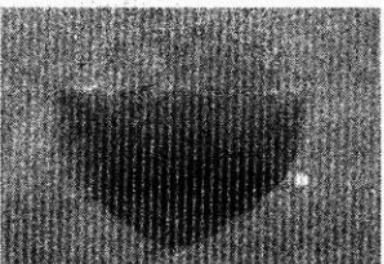
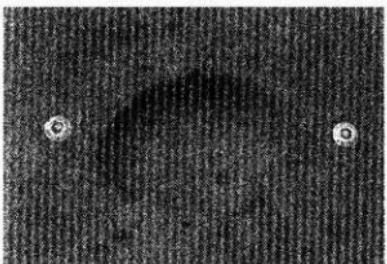


図40 81・83・85・87・178・181号 土層断面図



#### 4-4-3 11~15・17・86・177・179・180号

調査区西部のA2~A3グリッドに分布する遺構群である。177・179号より後期初頭の土器細片が少量出土し、11号より磨石が1点出土しているが、これらの遺構群は後期初頭段階と判定された遺構群よりも上位で確認されたことから、縄文後期初頭~前集の遺構群として取り扱った。

覆土の断面観察の結果、柱が立てられていたような痕跡が見られるものもあるため、何らかの建物跡に関連・付属する遺構とも考えられたが、組み合わせ等が判然とせず、それぞれの遺構の機能・性格についても不明である。

(佐野)

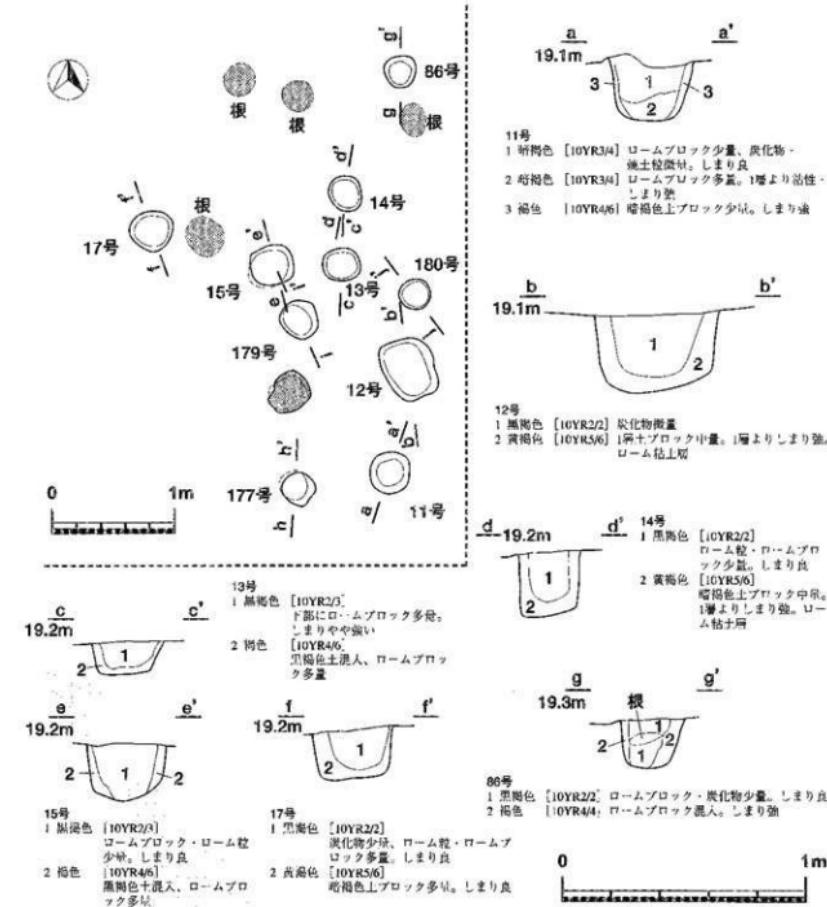


図41 11~15・17・86・177・179・180号

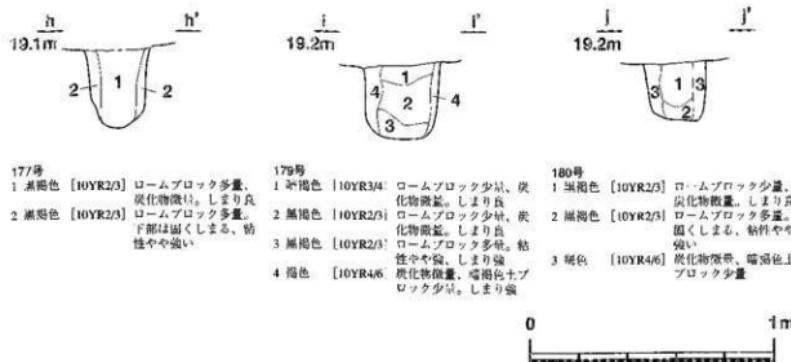


図42 177・179・180号 土層断面図

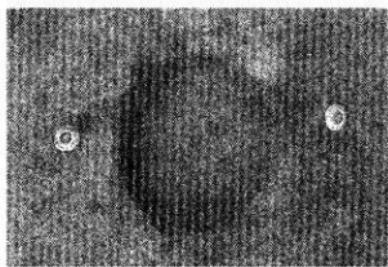


写真27 13号(東から)

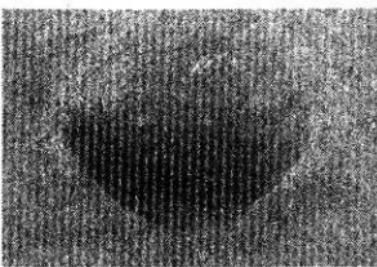


写真28 179号(東から)

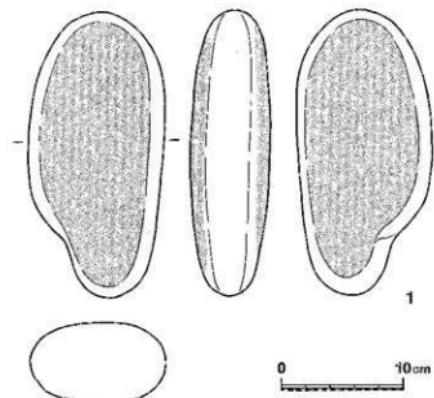


図43 11号 出土遺物

写真29 11号 出土遺物

表13 11号 出土遺物観察表

No.	種別	器形	部位
1	石斧	磨石	—
1層	—	安山岩	磨面あり

調査区西南部のB4～D4グリッドの、地山標高18.5～18m付近に、等高線に平行して東西10m程度、南北5m程度の範囲に展開・分布する遺構群である。25・38・48・53・55号より後期初頭を下限とする土器細片が出土しているが、77号より後期前葉とも考えられる土器細片が1点出土したこと、覆土の主な色調が黒褐色でかつしまりが良いという特徴から、縄文後期初頭～後期前葉の遺構群と判定した。

これらの遺構群は、土層断面を見ると柱穴状のものが多く、また南北に対になって列を形成するような様相も見られることから、何らかの建物跡ないしは構造物に伴う一組の遺構群とも推定された。地形的にみるとこれらの遺構群は、地形が平場から旧傾斜面に移り変わる境目のところにある。

これらは、縄文後期初頭～前葉のほぼ同段階に所在した遺構群ではあると考えられるが、遺構間の相關関係は判然としないため、堅穴住居跡や掘立柱建物跡に伴うものであるとは積極的に断定出来ず、それぞれの遺構の機能・性格等についても不明とせざるを得ない。  
(佐野)

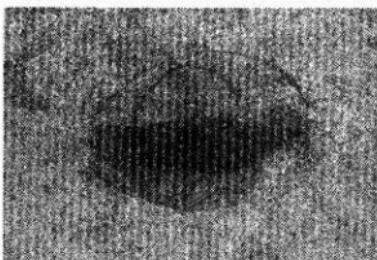


写真30 41号 (東から)



写真31 213・214号 (南から)

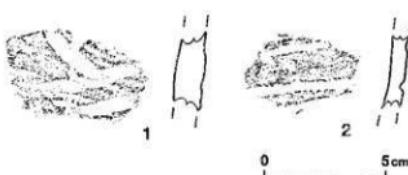


図44 38・53号 出土遺物

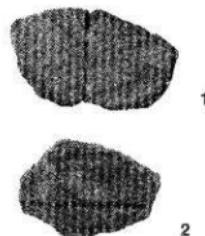


写真32 38・53号 出土遺物

表14 38・53号 出土遺物観察表

No.	種別	器形	部位	遺構	層位	年代	型式	備考
1	縄文土器	深鉢形土器	胴	53号	一括	中期末葉～後期初頭	—	—
2	縄文土器	深鉢形土器	胴	38号	一括	中期末葉～後期初頭	—	—